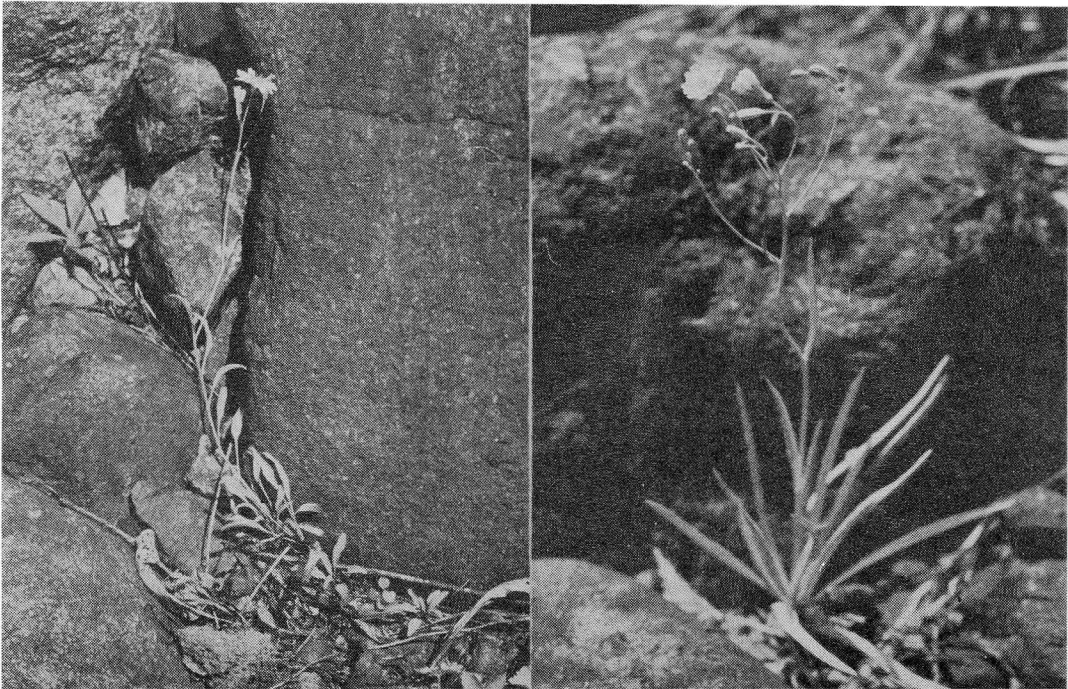


FLORA KANAGAWA

Mar. 20. 1991 No. 30

神奈川県植物誌調査会ニュース第30号

〒231 横浜市中区南仲通 5-60 神奈川県立博物館内 神奈川県植物誌調査会
TEL 045-201-0926・振替 横浜 3-10195



ツルカワラニガナ

カワラニガナ

ツルカワラニガナ

1990年6月23日、サツキの分布調査で道志川渓谷を訪れた際、夫婦園付近の河原でカワラニガナとイワニガナ（ジシバリ）の雑種と思われるものを見つけた。葉はカワラニガナとイワニガナの間で、茎は地面をはっている。近くにはカワラニガナの姿も見られた。この組み合わせの雑種にはツルカワラニガナの名前がついている。日光産のものをタイプとしてツルカワラニガナ *Ixeris nikoensis* Nakai と名付けられた (Bot. Mag. Tokyo 44:23) が、中井博士は後にカワラニガナとイワニガナの雑種とされている。

(勝山)

各調査メッシュに分布の追加される植物 I

(田中徳久)

はじめに

神奈川県下に産する植物についての、自らの観察記録や植生調査資料等の記録を整理した結果、『神奈川県植物誌1988』の調査メッシュ中に分布の記録がない、いくつかの種を明らかにする事ができたのでここに報告する。本報では、標本や写真等によって、その分布が確かに記録されているものについて報告する。

本報告では、追加される植物の学名と和名のほか、①観察日時・場所、②追加されるメッシュ、③特記事項(観察状況、記録の種別等)を記し、その配列は、『神奈川県植物誌1988』の掲載順とし、学名、和名ともに同植物誌によった。

追加される種と調査メッシュ

1. *Listera makinoana* Ohwi

アオフトバラン

①1989年6月23日、丹沢大山の山頂から、東に向かう尾根筋の、落葉広葉樹林下に生育している本種を観察した。

②大山

③本種は、スズダケが密生している林内のうち、比較的ササの少ない立地に生育していた。周辺には本種10数株が生育していたが、その内、3株ほどが、まだ短い花茎につぼみをつけていた。同定のために、つぼみをつけた個体1株を採集し、写真撮影を行い、記録した。

『神奈川県植物誌1988』(以下『植物誌』と略記)によると、丹沢、箱根の両山地から本種の分布が記録されている。大山では1963年に本種が採集されているが、神奈川県植物誌調査会の調査では採集されていない。大山地域にも、1990年現在、本種が生育することが明らかとなった。

2. *Galeora septentrionalis* Reichb. fil.

ツチアケビ

①1986年11月10日、箱根白銀山(993m)の南斜面、箱根ターンパイク脇のササ草原の刈跡に生育している本種1株を観察した(湯河原-2)。また、1989年9月28日、大雄山最乗寺においても、道路脇に生育する本種1株を観察した(南足柄-2)

②湯河原-2, 南足柄-2

③白銀山の個体には20数個の果実が実っていたが、付近にはこの1株のみが生育しており、全景と、ニホンザルのものと推定される食痕を撮影し、記録した。大雄山の個体は、横浜国立大学教育学部の益田のぞみが採集している。

『植物誌』によると、箱根及び伊勢原周辺に本種の分布が点々と記録されている。また、『植物誌』以降、三国山(箱根-2)からも記録されており(城川ほか, 1989)、本報の2ヶ所の産地も加えると、ほぼ箱根全域に生育することが明らかとなった。

3. *Yoania amagiensis* Nakai et

F. Maekawa

キバナノショウキラン

①1989年7月1日、大雄山最乗寺において、スギ林の林床に生育している本種を観察した。

②南足柄-2

③生育地は比較的若いスギ植林の林床で、周辺を探すと3株ほどが生育しているのが観察できた。同定に確証を得るために花部のみを採集し、写真撮影を行ない、記録した。

『植物誌』によると、丹沢、箱根の両山地周辺から、点々と本種の分布が記録されている。箱根山地周辺では、本報告の大雄山のほか、箱根-2、奥湯河原等に記録がある。

4. *Paeonia japonica* (Makino)

Miyabe et Takeda

ヤマジャクヤク

①1990年5月20日、丹沢堂平において、ブナ林の植生調査を実施中、本種を観察した。

②清川-1

③観察時、本種はまだつぼみの状態であり、周辺には2株ほどが生育しているに過ぎなかったので、採集は行わず、写真を撮影し、記録した。

『植物誌』には、箱根周辺、丹沢山塊に本種の分布が記録されている。

林ほか(1961)は、丹沢山地より、*Paeonia obovata* Maxim. ペニバナヤマジャクヤクを記録しているが、前述のように、本個体はつぼみの状態であったため、両種の区別点である、花色、柱頭の形とも観察できなかった。この点については後日さらに詳しく観察し、正確を期したのち別に報告することとし、暫定的に本種として報告す

る。

5. *Corydalis decumbens* (Thunb.) Pers.

ジロボウエンゴサク

①1989年4月6日、大雄山最乗寺において、石垣上の植え込みの縁に生育している本種数株を観察した(南足柄-2)。また、同年5月1日、箱根仙石原湿原にて、ヨシの刈跡に生育する本種数株を観察した(箱根-1)。

②箱根-1, 南足柄-2

③箱根仙石原では、採集は行なっておらず、写真撮影によって記録するととどめているが、大雄山では、写真によって記録するとともに、横浜国立大学教育学部の益田のぞみが、本種を採集している。

『植物誌』によると、県内に広く本種の分布が記録されている。箱根-1の調査メッシュには「メモなどによる記録」によって本種の分布が示されており、今回の報告は新分布の記録とはならないが、写真による記録を行なったので特に報告した。

6. *Parnassia palustris* L.

var. *mulutisetosa* Ledeb.

ウメバチソウ

①1982年11月13日及び1984年11月17日、横浜市戸塚区舞岡町の谷戸に生育する本種を観察した。

②戸塚-3

③『植物誌』に記載されている横浜での記録は筆者によるものであるが、観察日時と、分布の記録されている調査メッシュに訂正があるので、とくにここに報告する。なお、『植物誌』の再版の際に訂正出来なかったことをお詫び申し上げます。

7. *Viola mandshurica* W. Becker

スマレ

①1982年4月17日、1986年4月29日、戸塚区舞岡町の谷戸において本種数株を観察した。

②戸塚-3

③1986年4月29日には、写真撮影を行ない、記録した。

8. *Ajuga yezoensis* Maxim. ex Fr. et

Sav. var. *tsukubana* Nakai

ツクバキンモンソウ

①1983年4月27日、横浜市港南区の神奈川県立野庭高等学校近くの、竹林の林縁に生育している本種を観察した。

②港南

③周辺には数株が生育しており、写真を撮影し、記録した。

『植物誌』によると、横浜、三浦地区を中心に、県央を除く各地から記録されている。同植物誌にも触れられているが、当時、筆者も、本種を学名上の母種である *Ajuga yezoensis* Maxim.

ex Franch. et Savat. var. *yezoensis* ニシキゴロモと誤認していたが、その後、花冠上唇の形状(写真からでは判断が難しいが)、両変種の分布等から本種と同定した。

9. *Peristrophe japonica* (Thunb.)

Bremaek.

ハグロソウ

①1989年9月7日、箱根神社裏手の道端に生育している本種を観察した。

②箱根-4

③『植物誌』には、県央以西に点々と分布が記録されているが、箱根地域では初記録である。写真を撮影し記録とした。

10. *Taraxacum laevigatum* DC.

アカミタンポポ

①1982年3月24日、同年4月24日、横浜市港南区の野庭神社近くの休耕田に生育している本種を観察した。

②港南

③周辺に生育するタンポポは、ほとんどがセイヨウタンポポであったが、採集した種子のなかに本種と同定されるものが含まれていた(1982年4月24日)。

おわりに

本報で報告した植物は、標本や写真等によって、その分布が確かに記録されているものにかぎったが、筆者の資料の大半は、現地での観察、および、撮影した写真に基づき、標本の採集はほとんど行なっていない。今後、標本や写真等の記録を補い、順次発表してゆく予定である。

本報告をまとめるに当たり、各地での植物観察の機会を与えて頂いた、横浜国立大学教育学部の

遠山三樹夫教授と、神奈川県立野庭高等学校の植村明也(当時)、田副幸子、谷川明男の各先生に厚く御礼申し上げる。また、文献資料についてお世話を頂いた、神奈川県立博物館の高橋秀男学芸部長、勝山輝男学芸員と、各地での植物観察行をともにし、御助力頂いた、益田のぞみ、山本謙一、小泉玲子、大竹浩恵の各氏に、感謝の意を表する。

引用文献

- 林弥栄ほか. 1961. 丹沢山塊の植物調査報告. 林業試験場研究報告, 133: 1-128. 16Pls.
神奈川県植物誌調査会編. 1988. 神奈川県植物誌 1988. 1442pp. 神奈川県立博物館, 横浜.
城川四郎ほか. 1989. 各メッシュ追加植物リスト FLORA KANAGAWA, 27: 254-270.

アオギリ雑考

(宮崎 卓)

アオギリ (*Firmiana platanifolia* 以下, 単にアオギリといえはこの広義アオギリを示す) は神奈川県内に人為分布したと思われる植物で, 1988年版植物誌P.925には帰化種として分布図が作成されている。この項で県内産のアオギリについて分布図と解説文の不一致く分布図は多毛型のアオギリ (var. *tomentosa*), 解説文はケナシアオギリ (var. *platanifolia*) > という混乱は確かにある。しかし県内産アオギリをすべて帰化種としたのは, ケナシアオギリも中国に産し, 公園などに植栽されるという事実からも, とりあえずは妥当な措置であったと思う。

さて県内で見られる野生状のアオギリは, 葉裏面上に星状毛を密生する多毛型のアオギリ (和名上は狭義のアオギリ) と, 裏面の脈腋を除けばほとんど星状毛のないケナシアオギリの二変種が存在する。1988年版植物誌には県内に分布するものをすべて多毛型のアオギリ (var. *tomentosa*) として, 分布図をつくっているが, 実際にはケナシアオギリの型も逸出しており, 分布図に用いた標本にもケナシアオギリが混ざっている (小崎昭則氏による)。また私自身も, 平塚市北金目でケナシアオギリ型の逸出を見たことがある。

ところで, 県下では空き地や都市林の林縁などで見られるアオギリであるが, 本来の生育地 (もしくは自生とみなされている所) ではどの様な生育状況を示しているのだろうか, 私は郷里高知県

の実家に度々帰ることがあり, その度に近くの高野山で植物を見る機会があるのだから, 最近実家の近くで, 在来といわれるケナシアオギリの野生に何度か出くわした。これらのケナシアオギリの生育地はすべて海岸で, たいていは根を降ろす土壌すらも満足にない断崖や岩地の風衝地である。また時として防風林内に混じることもある。樹高は低く, 低木から小低木, 公園に植えられているものの様に高木になることはめったになく, また断崖の風衝地などでは木の生育もかなり遅い。そして観察できた自生地は, 疎林あるいは低木林ではあるが, 一応の植生遷移は終わり, 風衝地低木林として安定した樹林内であった。

このことは, 人為の影響の少ない植生内にアオギリが見られることを示すと同時に, 断崖の風衝地という, 自然環境の中では比較的外来の植物を受け入れやすい環境にケナシアオギリが見られることを示す。今回は南日本のケナシアオギリが在来か逸出かの考察は, 本県のフローラと直接の関係がないので行わないが, ともかくもこれが自然の生態系の中で確たる地位を占めたケナシアオギリの生育状況であり, 本県の空き地などに見られるアオギリの生育状況とはずいぶん異なる。この様にケナシアオギリが海岸に生えるのを, 私は高知県内のほかの場所でも見たことがあり, 諸文献においてもケナシアオギリの海岸生が記されている。これらのことから, 日本でのアオギリの安定した生態的地位は海岸の風衝低木林と考えてよさそうである。

ここで話を県内にもどしたい。県内の逸出したアオギリ (分布図では多毛型アオギリであるが, 実際は前述の様に広義のアオギリ) は1988年版植物誌の時点で, 三浦半島を除く平野部に広がっている。ところで, これらの生育地はすべてが空き地とか路傍ばかりなのであろうか。本県においても海岸近くにアオギリが分布しているのは分布図よりわかるが, はたして断崖や防風林などの本来の生育環境に侵入してくることはないのだろうか。

県下には古くからアオギリの自生が知られていたわけではないので, 仮りに海岸の風衝低木林などにアオギリが出現しても, それはまず逸出品の分布拡散と考えるのが妥当であろう。しかしその逸出品は確固たる生態的地位を得たものとして, 空き地などに見られるものとは生態的な面におい

て根本的に異なるものと言える。

現在、私は県内においてそのようなアオギリを見ていないので、上記のことは仮想の域を出ない。しかしながらアオギリに限らず、県内に人為分布した植物が安定した生態的地位を得るということは、考えられるし実際にいくつかの種についてはそういった実例もある。帰化、移入、逸出、自生そして新産などの区分は、原産地が国境線の内か外か、あるいは侵入した年代が古いかな否か、野外に見られる個体数が多いかな否かなどの基準ばかりでなく、現状における生態的地位という要素も、それらと同じ程度に重視すべき要素であると思う。史前帰化植物があくまで“帰化”ではなく、“史前帰化”であるのは、単に渡来年代が古いというだけの理由でないというのは誰もが認めることであるのだから。

以上まとまりのない雑文となってしまったが、安定した生態的地位ということも念頭に置き、今後県内のアオギリの生育状況を見てゆきたいものである。また県内には、ほかにもセンダン、ビワ、リュウキュウハゼなど人為的に持ち込まれたと考えられる植物がいくつかある。これらも本来の生態的地位（生育状況）を把握した上で、移入なり逸出なりの判断を行なった方がよいと思う。

<文献>

倉田 悟, 1976: アオギリ. 週刊朝日百科 世界の植物 33: 796-798. 朝日新聞社.

三浦半島沿岸におけるヒメオニヤブソテツの分布

山本 明・加藤喜重・小崎昭則
北川淑子・大森雄治

神奈川県内のオニヤブソテツは、本会の調査によって、沿岸部から内陸の丘陵地まで広く分布していることが明らかにされた（神奈川県植物誌調査会編, 1988）。しかし、この調査では、生殖型と染色体数の異なる3つの型、狭義のオニヤブソテツ（3倍体無配生殖型：以下オニと略称する）、ヒメオニヤブソテツ（2倍体有性生殖型：以下ヒメ）、ナガバヤブソテツ（4倍体有性生殖型：以下ナガバ）を区別してはいない。

三浦半島の周辺地域の記録では、静岡県でこれら3型が認められ、ヒメは伊豆半島沿岸に、ナガバは伊豆・静岡県中部・遠江の山地谷筋に生育するとされている（杉本, 1984）。また、ヒメに関

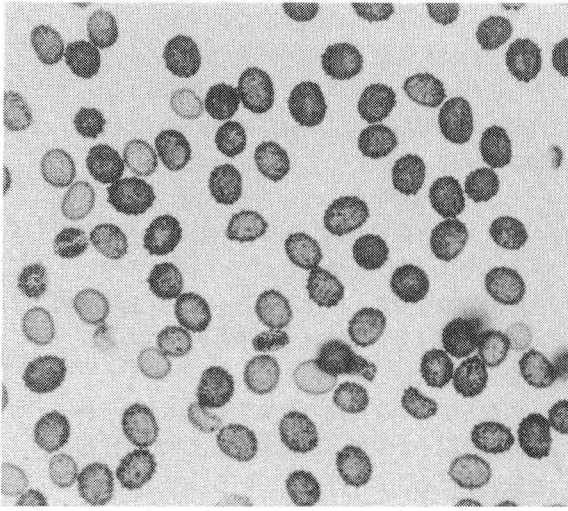
しては、これまで青森県沿岸で報告され（山本・中池, 1988）、胞子や孔辺細胞の大きさが2倍体と3倍体の間で比較されており、ナガバに関しては最近の地方植物誌（大分県植物誌刊行会編, 1989; 阿部, 1990）でも記録されている。

そこで、三浦半島には普通にみられるこれらオニヤブソテツ類のうち、海岸にみられるというヒメオニヤブソテツを確認し、その分布と形態的・生態的特徴を明らかにすることを目的に調査し始めた。今回は分布の概要と胞子の大きさの違いなどを紹介したい。

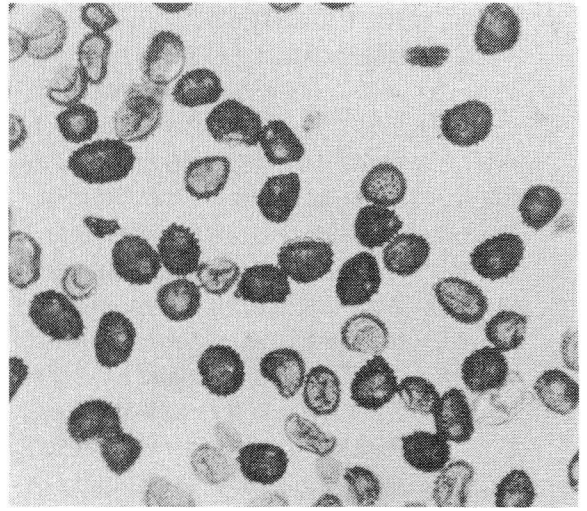
調査方法：シダ植物の有性生殖型は1胞子囊中に減数性胞子を64個、無配生殖型は非減数性胞子を32個つくることが知られているので、1胞子囊中の胞子の数と、熟した胞子の大きさや均一性をもとに、これら3型を区別した。調査は、胞子が成熟し始める5月17日と6月14日（1990年）に三浦半島南部の海岸、三浦市南下浦町松輪小浜から劔崎、毘沙門を経て三崎町宮川まで、6月22日に横須賀市猿島で行った。現地では小型で胞子のついた、ヒメと推定される個体から1枚の葉を採取して乾燥証拠標本とし、その葉の中で、熟しはじめた胞子のついた羽片を切り取り、60~70%のエタノールで固定した。その液浸標本から胞子囊を採取して1胞子囊中の胞子数を顕微鏡下（100倍程度）で数えた。さらに、乾燥標本から完全した胞子を採取し顕微鏡下で観察してその大きさと均一性を観察した（200または400倍）。また、比較のためオニとヒメの交雑個体の有無を確認するため、ヒメの周囲のオニも同様に採集し観察した。

結果と考察：三浦半島南部から51個体、猿島から11個体のオニヤブソテツ類を採集し、胞子数の計測と大きさの測定を行ったところ、明らかに2型が確認された。今回の調査では交雑個体と推定できるようなものはなかった。

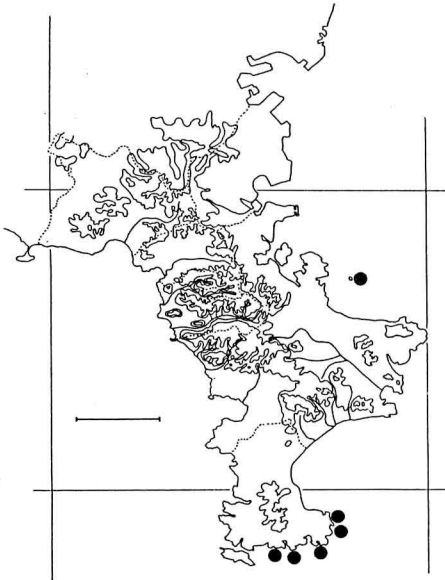
胞子囊中の胞子の数が64個の場合は胞子の形がよく揃い、大きさは長径で30~40 μ mと小形であった（第1図）。一方、32個の場合は胞子の形が不揃いで、細胞質を欠くものもあり、大きさは40~50 μ mと大きかった（第2図）。この結果は青森県での調査結果（山本・中池, 1988）とよく一致する。このようにしてヒメと確認された個体は三浦半島南部で30個体、猿島で3個体であり、今回の調査地域内では偏在することなく広く



第1図 ヒメオニヤブソテツの胞子.
スケールは100 μ m.



第2図 オニヤブソテツの胞子.
スケールは100 μ m.



第3図 ヒメオニヤブソテツの分布図.
スケールは5 km.



第4図 大型のヒメオニヤブソテツ (左) と小型のオニヤブソテツ (右) の葉の全形. スケールは5 cm.

見られた(第3図)。ヒメの外部形態は、葉が小さく(全長約20cm)、葉の大きさに比べ羽片数が多い傾向がみられたが、オニの若い個体との区別はむずかしかった(第4図)。また、ヒメの生育環境は日当たりが良いと同時に水はけも良く、乾燥していない岩場の割れ目が多かった。城ヶ島(1989年8月19日西山清治氏採集)や江ノ島(1990年11月26日大森雄治氏採集)でも外部形態的にヒメと推定される個体を得ているので、ヒメは三浦半島全域にわたって、自然の海崖に生育しているものと推定される。

今後はナガバの調査も加え、3型の分布調査を半島全域にわたり行う予定である。

このような調査は低倍率の生物顕微鏡があれば手軽に行える簡便な方法であり、染色体数を直接数えなくとも、完全前の胞子をつけた個体さえ入手できれば種内倍数体の確認や交雑個体の推定に役立つ資料が得られる。もちろんオニヤブソテツ類以外でも応用できるので関心のある方はぜひご協力いただきたい。

引用文献

- 阿部近一 1990. 徳島県植物誌. 580ページ. 教育出版センター, 徳島.
 神奈川県植物誌調査会 1988. 神奈川県植物誌 1988. 1442ページ. 神奈川県立博物館, 横浜.
 大分県植物誌刊行会編 1989. 新版大分県植物誌. 大分県植物誌刊行会, 別府.
 杉本順一 1984. 静岡県植物誌. 814ページ. 第一法規出版, 東京.
 山本 明・中池敏之 1988. 青森県におけるオニヤブソテツ, イワイタチシダ, ヤマイタチシダの生殖型と分布. 国立科学博物館専報, (21): 71-79.



神奈川県産の植物補遺(1)

(小崎昭則)

前号の種子植物補遺(1), シダ植物補遺(2)に続くものであるが, 今回から両者を一括して上記の表題で扱うことにする。

緑区と旭区で確認したナガバヤブソテツ

前項に‘オニヤブソテツ’に関する最近の成果

ナガバヤブソテツ(旭区上白根町産)

スケールは5cm.

が紹介されているが、田川（1934）が両者を変種関係に位置づける以前は別種として扱われていた。田川先生は、オニ…“羽片の基脚は両側不等、下側は楔形又は鋭尖形上側は圓截形”，ナガバ…“羽片基脚は廣楔形稍同形”なる検索表を提示し、ナガバヤブソテツについて“オニヤブソテツとは一見大に異なるものようであるが中間型多く種を分つことは困難である。北九州の山地に多いが本州、四國、濟州島にもある。オニヤブソテツが海岸の植物であるのに反し、この変種はかなり山奥にもある。”と述べた。倉田（1963）は「日本のヤブソテツ属」という報文のオニヤブソテツの項で、“C.P.Thunberg氏が長崎付近で採集したものがtypeで、同氏のFlora Japonica（1784年）に図示されている。”、“海浜を離れた山中に自生するものは葉が薄くなり多少光沢が弱まる。特に羽片が幅狭く、基脚がほぼ左右同形の楔形をなすものをナガバヤブソテツというが、中間型が多くて到底区別出来ない。”と記した。また、広く普及している『新日本植物誌シダ篇』（中池，1982）のオニヤブソテツの項では、山の中に入るとナガバヤブソテツという型のもが出てきて、それは4倍体で有性生殖を行うことが示された。学名については一般に、オニヤブソテツに*Cyrtomium falcatum* (L. f.) Pr. var. *falcatum*、ナガバヤブソテツに*C. fal.* var. *devexiscaplae* (Koidz.) Tagawaが当てられているが、神奈川県立博物館で昨年11月18日に開かれた「かながわ県民アカデミー 植物研究講座」第6回目の中池敏之先生の講演の時、本邦初公開というスライド<ウブサラ大学に保存されている*C. falcatum*のタイプ標本(L. fil. 1781)>がご厚意で紹介され、それには将来の学名変更を予期させる興味深い葉が写っていた。

ところで、『植物誌'88』の「緑-1」に引用された‘オニヤブソテツ’についてであるが、生育地の関係から3倍体のオニヤブソテツと思い込んで標本を提出していたが、昨年、山本明先生や大森雄治先生に実地のご指導をいただき調べ直したところ（5/24採取、孢子数の観察適期過ぎる）、1孢子のうちの中孢子数は約64個あり、ナガバヤブソテツ（4倍体）の誤認であることがわかった。本個体は横浜市緑区三保町の坂道脇山側の「じゃかご」に生じた1株で、日の当たる様子は'86年の採集当時とそれほど変わっていないようにみえた。近所の人の話によると、この「じゃ

かご」は8年程前に土留め目的で設置されたとのことであった。

「緑-1」や旭区では、‘オニヤブソテツ’がやや稀な部類に属し、「緑-1」で見つけたもう1株（恩田町、人工林下、5/23採取、孢子数の観察適期）も4倍体であった。旭区産についても孢子を調べることでできた自生品1株（上白根町、人工林下、6/16採取、適期；上川井町においても1株見つかったが、孢子が着かなかった）はナガバヤブソテツであった。なお、都筑自然公園の仮植地（旭区川井宿町）に持ち込まれたカナリーヤシに付着していた小形株（7/28羽片採取）は3倍体（狭義オニヤブソテツ）であった。幹には他にインカグマ・タマシダ・ツルソバなどの‘珍客’やイワヒメワラビ・コンダなどが見られたことから、暖かい近海地で最近まで養生されていたものであろう。

孢子数を調べる際、大森雄治先生にいろいろとご指導をいただいた。また、北川淑子さんには孢子数の再確認をしていただいた。

<文献>

- 田川基二，1934：日本のヤブソテツ属。植物分類及植物地理，3（2）：57-67。（p. 58-60）
 倉田悟，1963：日本のヤブソテツ属。横須賀市博物館研究報告（自然科学），8：23-47。（p. 32-33, 45）

三浦半島のキヨタキシダ

1990年4月13日、大場信義先生・大森雄治先生と観察会の下見目的で二子山を訪れた際に見つけたものである。森戸川左岸（葉山町側）の山麓斜面に1枚だけ葉を展開していた。生育状況を考慮して採葉をせず、根茎をキヨタキシダのものと確認をした上で、写真による記録を大森先生にお願いした。三浦半島における記録は、私の知る限り



では、遡ること半世紀、大谷茂先生が横須賀市博物館研究報告 No. 14 (1968) のp.63に“三浦：葉山二子山谷(初山泰一, 1933.1 TI)”を載せられて以来のものである。なお、1990年12月5日、西山清治先生・秋山守先生・北川淑子さんとともに同所を訪れた時には、確認に至らなかった。

県北、城山町のマツザカシダ

1990年1月16日、北川淑子さんと津久井郡城山町を訪れた際に見つけたものである。発見地は町田市との境界に近い、東向きに開析した谷の南向き斜面である。生育地は幾分凹型の比較的急な山腹で、フモトシダの多生する礫質の人工林下に数十cm平方の小さなまとまりをつくっていた。生育状況は良好であった。関東地方内陸部における記録は“五日市市深沢(中村建爾 1975)”『日本のシダ植物図鑑 1』(1979)がみられる程度であることから、当方面における分布量は恐らく極限されているのであろう。

当日の記録から…ハコネシダ(沢沿い岩上に少産)・ハカタシダ(散在)・オニカナワラビ(散在)・キヨスミヒメワラビ(数カ所)・ヘランダ(極小群1カ所。当方面では稀)・ツヤナシノデ(1株)・サイゴクイノデ(3~4株)など。

ニシムラキイチゴ(一名ハチジョウクサイチゴ) *Rubus nishimuranus* Koidzumi

植物誌標本として集められた県博所蔵のキイチゴ属標本の中に、「本種」と推定されるものが1点含まれていた(No. 46101: 採集者不明, 1983. 9.18, 真鶴町)。花のない標本であったが、発達した頂小葉にほとんど柄がみられなかったことから、鳴橋(1976)が *R. nishimuranus* (1918年の発表時の和名ニシムラキイチゴ)の基準産地である小笠原父島産の栽培品をもとに推定した「ハチジョウクサイチゴ(クサイチゴとカジイチゴが関係した雑種起源の分類群)」に相当するものと思われる。和名ハチジョウクサイチゴは中井(1921)が八丈島産の *R. hachijoensis* を新種発表した時に公にされたものであるが、今日では *R. nishimuranus* とともに用いられることも少なくない。これには、*R. nishimuranus* の発表以前に八丈島産の当該植物に対してハチジョウクサイチゴの和名が普及していたか、小野(1975)が記したように小笠原諸島に当該植物の起源と推

定される両親種が見い出されず、移入の疑いの否定できないことが影響しているように思われる。

県下では既に、初山泰一先生により鎌倉産が報告されているが(『植物誌' 88』p.770参照。牧野富太郎先生の採集)、狭義の「本種」に当たるものであるかどうかについてはよくわからない。伊豆大島や都内新宿区において近年見出したものは、発達した頂小葉にはっきりとした柄が認められ、鳴橋(前出)の推定したトヨラクサイチゴ *R. toyorensis* Koidz. (上記2種の組み合わせによるF1雑種)と判断されるものであったからである。近隣地域では明治神宮にも“ハチジョウクサイチゴ”の記録がある。この調査を担当された加藤僖重先生にその時の様子をお尋ねしたところ('91.2.10)、“矢野佐先生が最初に気づかれたもので、後で矢野先生と一緒に行って採集し、私が押葉標本にして社務所に収めた。他の種類と違い、少ししか生えていなかったので重複標本は作らなかった。”と教えてくださった。情報の公開をご快諾いただいたことにお礼を申し上げます。

<主要参考文献>

- 本田正次・矢野 佐・加藤僖重, 1980: 種子植物。明治神宮境内フロラ調査報告。208-228。明治神宮社務所。(p.215)
- 小泉源一, 1918: CONTRIBUTION AD FLORUM. 植物学雑誌, 33: 249-259。(p.254)
- 小泉源一, 1937: 珍らしきキイチゴ属の一新種。植物分類, 地理, 6 (1): 63-64.
- 中井猛之進, 1921: NOTULAE AD PLANTAS JAPONIAE ET KOREAE XXV. 植物学雑誌, 35: 140-153。(p.151)
- 鳴橋直弘, 1976: カジイチゴとクサイチゴの雑種についての分類学的報告 [1] 形態。北陸の植物, 24 (2), 26-34.
- 岡 国夫 ほか編, 1972: 山口県植物誌。山口県植物誌刊行会。(p.17, 345-346, 545)
- 小野幹雄, 1975: Chromosome Numbers of the Bonin Plants (I). 植物学雑誌, 88: 323-328。(p.325)

ユメノシマガヤツリ

Cyperus congestus Vahl

東京湾沿岸の埋立地で10数年前に気づかれた多年草である。本邦において原産地(オーストラリ



ニシムラキイチゴ (ハチジョウクサイチゴ)
真鶴町産 [×0.4]



トヨラクサイチゴ
東京都新宿区産
[×0.4]

付. 私の選ぶ“標本虫”の好む植物群ベスト25
 1.セリ科 (コエンドロ, チドメグサ, ドクゼリ, ウイキョウ, シシウド属など), 2.キク科 (キク, アザミ, ニガナ, ヤクシソウ属など), 3.サトイモ科, 4.バラ科 (サクラ, ヤマブキ, ナツ属など), 5.ユリ科 (ユリ, カタクリ, ユキザサ, バイモ, アマドコロ, ネギ, タケシマラン属など), 6.モクセイ科 (レンギョウ, ハンドイ, イボタ属など), 7.グミ科, 8.アブラナ科 (タネツケバナ, イスガラシ, ハタザオ属など), 9.アヤメ科 (ニワゼキショウ属), 10.ラン科 (シュスラン, ヒメトケンラン属など), 11.キキョウ科 (ツリガネニンジン, ホタルブクロ, キキョウ, ヒナギキョウ属など), 12.ノウゼンカズラ科 (ノウゼンカズラ属), 13.スイカズラ科 (スイカズラ属), 14.ナス科 (ナス属), 15.サクラソウ科 (オカトラノオ属), 16.ショウガ科 (ハナミョウガ, ショウガ属), 17.タデ科 (広義タデ属), 18.ゴマノハグサ科 (ウンラン属), 19.ガガイモ科 (カモメヅル属), 20.キンボウゲ科 (キツネノボタン, イチリンソウ, トリカブト属), 21.モクレン科 (花), 22.クワ科, 23.クスノキ科 (花), 24.ヤナギ科 (雄花), 25.イネ科 (タケ・ササ類の葍, ネズミムギなど) など.

油断すると, シダ植物のミズニラ科 (主に大胞子の着く部分), センマイ科 (実葉部), チャセンシダ科 (トラノオシダの軟らかい葉) なども食害を受けることがある. また, シバムシに至っては, 裸子植物のスギ科の毬果なども食害する.

ア・南アフリカ)や学名が明らかにされたのは5年前(浅井康宏・小山鐵夫,1986)で,和名(発見地「夢の島」に因む)もこの時に与えられた.一般書では江東区(1986)が発行した『続江東区の野草』p.176-177にわかりやすい写真と解説が載っている.私の本種との最初の出会いは1983年10月30日のことで,品川区の大井埋立地にごく少数生育していたことを覚えている.この時には勿論,名前はわからなかった.その後,江東区や港区において多数生育するのを観察し,近年,北区や葛飾区にもあることを知った.江東区における分布拡大の早さと繁茂ぶりから,千葉県や神奈川県に出現するのは時間の問題と考えていた.1990年10月27日,川崎区の東扇島埋立地を訪れたところ,延長100m位にわたって帯状に生育する本種に気がついた.侵入後,2~3年は経過しているようであった.草刈りの影響のためか小形の個体が目立ち,大きなものでも高さ70cmどまりであった(江東区では最高130cmを記録).

学名については,小穂が基部で関節する特徴から,*Mariscus congestus* (Vahl) C. B. Clarke として扱われることもある.しかし,江東区において本種とヌマガヤツリとの雑種と考えられる個体(1988.8.13採集,筆者所蔵)が見つかったことから,狭義カヤツリグサ属との関係は,上記の性質により人為的に分けられるほど遠くはないのかも知れない.アゼトウナ属の取り扱いに大きな成果をみた最近の研究手法が,この仲間にも応用できそうである.

<主要文献>

浅井康宏,1986:ユメノシマガヤツリ. 続江東区の野草,176-177. 江東区総務部広報秘書室.

浅井康宏,1986:帰化植物の現状,一その概要と侵入経路などを中心に一,生物の科学,遺伝,40(1):26-35. 裳華房,東京.

浅井康宏・小山鐵夫,1986:東京湾沿岸に帰化したユメノシマガヤツリ(新称)について. 植物研究雑誌,61(4):111-113.

イセウキヤガラ

コウキヤガラとの混乱がよく知られている.私もかつて両者を混同していた.『植物誌'88』や一般の図鑑類の記述では,これらの違いがまだわかりにくいように思われるので,前号に続き,気のついた点を紹介する.

・苞葉や葉の縁の状態…両者を区別するのに最もわかりやすい形質である.これは野口達也先生の貴重なご教示によるもの(公表のお許しをいただいた)で,イセウキヤガラが平滑であるのに対し,コウキヤガラではざらつき(上向きに微細な刺)がある.南関東産では,一部の疑問品を除くと,うまく区別できるように思われる.苞葉のざらつきは顕著であるので,縁を少し擦っただけでわかる.葉は苞葉に比べるとざらつきが少ない(下の方の葉ではざらつかない)ので,なるべく上の方に着くものの先端近くで観察する.また,ルーペを用いれば,茎の最上部(花序のすぐ下あたり)や小穂の柄の上部にも微細な刺が観察できる.

・苞や葉の横断面の形…両者の重要な区別点とされる.イセウキヤガラでは上面中央が少し窪んだ鋭三角になるのに対して,コウキヤガラのよく発達した苞では二面的となる.ただし,コウキヤガラでも小穂着数が1~2個と少ない場合には,最下の苞が茎のほぼ延長上に立ち,その横断面は三面的,花序は仮側生の頭状に見え,紛らわしいことがある(『植物誌'88』のp.339のイセウキヤガラの図にそっくりな姿となる).小山(1980)では,イセウキヤガラの小穂着数の多い場合にコウキヤガラと紛らわしくなると書かれているが,それは恐らく,河口付近の岸寄りにしばしば観察される前述の「疑問品」に相当し,コウキヤガラのイセウキヤガラに近づいた形,あるいは両者の交雑品?ではないかと思われる.なお,この区別点(横断面の形)は一般には野外向きと考えられ,強く圧せられた押し葉標本では慣れないと間違えやすい.真偽のほどはわからないが,小山(1980)以来,イセウキヤガラ(清水1965)という植物に当てられるようになってきた*Scirpus* (*Bolboshoenus*) *planiculmis* の原記載(Schmidt. Fr.,1868)には,清水(1967)が*Scirpus* (*Bolboshoenus*) *iseensis* T. Koyama et T. Shimizu(和名イセウキヤガラ)を新種発表する際に触れた“the leaves are flat”の内容がはっきりと記されている.茎の横断面の形に大きな特徴が表れるこの類の植物の乾燥標本を作る場合には,ダンボール(吸湿紙の代わり)に厚さ5~10mm位の新聞紙大のスポンジを重ねるなどして,その形ができるだけ残るように工夫を凝らしたいところである.

着葉数と葉身の出る位置…出穂の観察される茎

の着葉数は、イセウキヤガラが2~4枚(清水, 1967と同じ観察結果), コウキヤガラが2~8枚(主に3~7枚. 筒井, 1983は福岡県産で9枚の例を報告)であった. コウキヤガラでも小穂を出さない茎のものでは, 最高11枚という例を観察した. なお, 両者の着葉数の変化範囲の相違は, 茎の長さには関係ない. 最上部の葉身が出る位置は, イセウキヤガラが茎の下半部に限られるのに対して, コウキヤガラではふつつ中部付近, 稀にはそれより上部になる.

苞葉…一見してわかる苞葉の数は, イセウキヤガラでは1ないし2枚(3枚目が出る場合は鱗片状となる), コウキヤガラでは大部分が2~3枚で, 4枚目が出る場合は鱗片状になる. また, 最下の苞の状態は, イセウキヤガラでは例外なく茎のほぼ延長上に立ち上がるのに対して, コウキヤガラでは小穂着数が約3個を超えるあたりから開出傾向を強めていく(『植物誌' 88』参照).

小穂数…イセウキヤガラでは1~4個(稀に5個, 極稀に6個…東京側の多摩川河口で観察), コウキヤガラでは1~10個程度である.

小穂の柄…イセウキヤガラでは通常柄が伸びない(注). コウキヤガラの小穂着数の多いもの(概ね5~6個以上)では, たいてい短い少数の柄が観察される. ただし, 小穂の出る順序と柄の関係は一定していない. 1個目の小穂があまり発達せず, 短い柄を出してそこに数個の小穂を着ける例などが観察されるからである.

注…小山(1980)は, 岩手県大船渡産の一部に2cmの柄のある例を報告している. 多摩川河口の「疑問品」(外観はイセウキヤガラにも似る)にも柄の出る例が観察される. しかし, よく注意すると, 苞葉や葉の縁にイセウキヤガラにはみられない「ざらつき」が低密度ながら観察される.

小穂の形…イセウキヤガラは大きくて先が尖り気味になるに対して, コウキヤガラでは円みの感じられることが多い. ただし, 小穂の小さな個体では, 先が尖り気味になるものもある.

小穂の色…イセウキヤガラは濃褐色(出穂直後の若いものでは幾分赤みを感じられる. 鱗片は栗色~赤褐色), コウキヤガラではそれよりも明るい色調(淡い印象がある)を示す傾向にある. 完熟期に近づくと, コウキヤガラでも濃く見えることがあるので, 私はなるべく花期や花後の若い段階のもので比較するようにしている.

刺針の数…この仲間(Bolboschoenus)の刺

針は極めて脱落しやすく, よく熟した標本での検討は無理がある. 清水(1967)は新種発表の際, 木曾三川の河口付近から得られた標本をもとに刺針数「6~7本」を報告し, *S. planiculmis* (原記載は4本)との区別点の一つにとりあげたが, 小山(1980)はイセウキヤガラは*S. planiculmis* そのものであるとし, さらに属名の組み替えを行って *Bolboschoenus planiculmis* (Fr. Schm.) T.Koyama とした. しかし, その論文には*S. planiculmis*の原記載に示された刺針数4本の場合が欠落している. また, *S. planiculmis* という植物に対して, 宮部金吾先生が既にヒメウキヤガラという和名を与えていることにも注意を払う必要があったと思われる.

刺針の数に関しては, コウキヤガラにも課題が残る. 「2~4本」あるいは「ない」と記された文献を見るが, 東京湾沿いの地域では本科の基本数と考えられる6本を備えた個体も時に見つかるからである. 国内でも6本と記した文献はあるが, アメリカの文献(Gleason, 1952…本誌27: 246右下参照)に2~6本と記されていることや, 東京湾沿いの埋立地は帰化植物の多い地域であることなどから, 外国の系統が入り込んだ可能性もないわけではない. 『中国植物志 第11巻』に書かれた「下位剛毛4~6条」も気になるところである(後述). 本件等についてはもう暫く観察を続け, また別の機会に報告することにしたい.

柱頭の数…通常はどちらも2個であるが, ユーラシア大陸のコウキヤガラ *B. maritimus* には, 3個のものも知られている. 小山(1980)によれば, それらは同一小穂内に混在することから, 地理的な意味は認められないという. 柱頭数ではないが, 多摩川において小穂基部につく果実のごく一部に三稜形のもので混じることを観察した.

生育地…イセウキヤガラについては, 前号のp. 296~297に紹介したが, 若干補足をしておく. 昨秋, 川崎区の東扇島埋立地(海岸埋立地)において *Bolboschoenus* の仲間の出現に注意したところ, イセウキヤガラとコウキヤガラの両方が確認された. また, 都下江東区では多産するコウキヤガラに混じり, ウキヤガラ(稀)も記録した. 3種とも生育地は水の溜まりやすいところで共通していた. 『植物誌' 88』のイセウキヤガラの説明中には, “コウキヤガラよりも塩分の多いとこ



ろに生える”とあるが、これは群落としての安定度が高い、一般に観察できる生育地を表したものであり、塩分濃度の低い環境に生えないということの意味してはいない。前号で紹介した緑区のような例があるからである。各発育段階における塩分濃度と成長との関係が明らかにされていない現段階では、清水(1967)が使用した“耐塩性の差”という表現を用いておくのが適当であろう。平常の満潮時に茎のかかなりの部分が水没するようなどころでは、*Bolboschoenus* の植物は清水(1967)の観察どおり、イセウキヤガラだけである。

その他、根茎の太さ(イセ…一般に細い)・硬さ(イセ…軟らかい)・生活形(イセ…小山先生の報告には、地下匍枝は宿存性でないと書かれている)、花期(イセの方が遅れる。清水先生の報告では、木曾三川の観察で1カ月以上の差があると述べている)などの違いが知られている。典型品について細部の検討を行えば、さらにいろいろな区別点が見い出されるものと思われるが、「疑問品」の解明も今後の大きな課題と考えている。

最後に、学名の問題は別として、イセウキヤガラとコウキヤガラ(エゾウキヤガラ)が以上のような形質から区別できるとの見方に立ち、幾つかの著名な図譜・植物誌などに掲載された関係植物について、気のついた点を書き留めておく。ここでは便宜上、小山(1980)の見解に従って、イセウキヤガラを*Bolboschoenus planiculmis*、コウキヤガラを*B. maritimus*とする。*Scirpus planiculmis* または *Bolboschoenus planiculmis* として掲載されたものは[P]、*S. maritimus* または *B. maritimus* とあるものは[M]で表す。

『中国植物志第11巻』(1961)の[P]…コウキヤガラを書いたものと思われる(ただし、小山先生は上記の報告の中で、中国大陸にもイセウキヤガラを産することを述べている)。前出のとおり、刺針(下位剛毛)は4~6本とされる。

『原色日本野外植物図譜1』(1982)の[P]…主に *B. maritimus* の内容であるが、イセウキヤガラも含まれているような記述である。『寺崎日本植物図譜 第2版』(1979)も同様である。

『牧野新日本植物圖鑑』(1989)の[P]…どちらを指しているのか判断できない。図による判別も難しい。

『樺太植物誌1』(菅原, 1975)には両種が掲

載されている。[P]…ヒメウキヤガラ(宮部新称)、キタホタルイの和名が示され、刺針は4本と記されている。[M]は *S. maritimus* L. var. *compactus* G. F. Meyer エゾウキヤガラとして掲載され、刺針は6本となっている。

1980年以降に発行された県単位の植物誌にもコウキヤガラ(エゾウキヤガラ)…*planiculmis*としたもの(その後、補遺の報告を出されているところもある)、あるいは *planiculmis* を出典の限定なしで *maritimus* の異名としたものなどがみられ、かなり混乱していることがわかる。

<引用文献…一般書以外>

Schmidt, Fr., 1868: *Reisen Amurl. u. Sachal.* 190-191, t. 8, f. 1-7.

小山鐵夫, 1980: 日本のウキヤガラ属. 植物分類, 地理, 31 (4-6): 139-148.

清水建美, 1967: イセウキヤガラとその生態. 植物研究雑誌, 42 (6): 175-181.

筒井貞雄, 1983: 福岡県のカヤツリグサ科植物予報 (1). 福岡の植物, 第8号: 69-118, 福岡植物研究会. (p.79~80)

ヤブザクラ

Prunus hisauchiana Koidz. ex Hisauchi

多くの研究者に注意されてきた正体不明の「サクラ」である。マメザクラを一回り大きくしたような印象があり、類似品も多いことから、同定された標本の中にしばしば混乱がみられる。本種は関東南西部の低山地、丘陵地、台地など低標高地を中心に分布すると思われる(後述)サクラで、近年の大規模開発の進行に伴い、生育地が急速に狭められているように見受けられることから、確かな分布を把握することが急務となっている。そこで、3月下旬~4月中旬の開花(多摩丘陵では3月25日前後~4月初め頃、津久井方面の標高400m位では4月中旬頃)を控え、本種に関するこれまでの研究経過、形態的な特徴、類似種との区別点、その他の注意事項などについて、気のついたことを整理してみた。

<概要> 本種は1910年4月に武州高尾山で小泉源一先生ご自身が採られた標本(TI)に基づき、1915年にマメザクラの新変種 *Prunus incisa* Thunb. var. *tomentosa* Koidzumi として発表された(植物学雑誌 29: 314; ※久内, 1937に記された出典は var. *urceolata* Koidz. のものの勘違いである)。記載には、花梗に粗毛を密布

し、本州（中部）に分布することが示されている。その後、久内清孝先生は横浜市中区およびその隣接地産の当該植物、小泉先生が採集された高尾山産標本（東大さく葉庫）などを研究され、*Prunus Hisauchiana* G. Koidzumii in lit.

(nom. nov.) として発表された(久内, 1937)。項目のところにあげた学名は、久内先生の本意とは反対の方向に運んでしまったもので、現行の国際植物命名規約46.3条（大橋, 1990: 植研, 65 (8): 248-256参照）に基づくものである。一般の図鑑類では、大場秀章先生がサクラ属を執筆された『日本の野生植物 木本1』（平凡社刊, 1989）p.193に使用されている。

<形態的な特徴, 類似種との区別>

久内先生をはじめ、多くの先生方が注意されてきたように、本種はマメザクラとエドヒガンが関係した‘雑種’を思わせる難解なサクラである。そのためか、今のところ、久内先生の記載よりも詳しく説明された図鑑類、植物誌等が見当たらない。そこで先ず、普及の意味からそれを紹介させていただきたい。

“低木（原文のArbusculaを直訳すると低木とか小樹の意味になる）。高さ約14m、幹周27cmに達する。根は横に伸びて分枝し、しばしば徒長枝を生ずる。当年枝は光沢のある灰白色。前年枝はニス塗ったような光沢のある赤褐色を呈し、皮目がある。葉は有柄。葉柄は細綿毛を密生し、長さ約1cm。葉身は倒卵形、長楕円状倒卵形、広倒卵形から倒卵状楕円形で、両面ともに有毛、またはしばしば上面がほとんど無毛。下面は淡緑色で多くの脈があり、顕著な密細綿毛がはえる。葉の縁は鋭浅裂し、細きよ歯は芒状の短尖形、稀に3重の細きよ歯縁。先端は鋭先形から突状鋭先形をなし、葉身の基部は鋭形から楔形で2個の腺があり、長さ4~9cm、幅1.5~4cm。ただし、徒長枝の葉では、細きよ歯が粗大化し、稀には単羽状に小片を生じ、長さ8.5~12.5cm、幅4~8cmに達する。托葉は‘のみ’形で、不規則に幾つかの部分に分かれるか浅裂する。各裂片は線状のやり形をなし、先端は微細な腺に終わり、長さ1~2cm、幅2~5mm。花は1~2個で、無梗の散状をなす。小花柄は下向きに出て、細綿毛を開出気味に密生し、長さ約1.2cm。苞葉は倒卵形、先は針状の細牙歯状で、基部は楔状鋭先形、長さ3.5mm、幅3mm。萼は直径1.2cm（←原文で

は約10.2cm）。萼筒は鐘状円筒形で密に細綿毛があり、基部は顕著に膨れ、長さ6mm、幅2.5mm。萼片はほぼ直角に開き、鈍頭で基部が明らかにくびれる卵形をなし、細きよ歯縁、両面および縁に少し毛があり、長さ4.5mm、幅3mm。花弁は一重で5枚、水平に開出し、白色で常にバラ色を帯び、円形または長楕円状円形、先は凹形、長さ1.3cm、幅1cm。雄しべは不等長で25~30本、無毛で花柱より短い。花柱は直立し、無毛または基部にまばらに毛がある。子房は近円錐形または近楕円形で、まばらに毛がある。胚珠は2個で常に不完全。果実についてはよくわからないが、恐らく不稔。

日本名：ヤブザクラ（久内清孝による）。

産地：日本本土。武蔵 高尾山（小泉源一採集, 1910年4月、基準標本、東京大学資料館所蔵）、武蔵 横浜 立野町（久内清孝採集, 1915年4月5日, 1917年4月3日; 1937年5月13日）。

固有植物。”

近似種との区別を意識した場合に、重要と考えられる点は次のとおりである。

① 萼の形…萼筒の基部が楔形に流れず、少し膨らんだ感じになる。標本ではわかりにくくなるが、エドヒガンとの関係を思わせる性質の一つである。『植物誌’88』p.788の図ではこの特徴がはっきりしなかった。萼片については久内先生の記載内容を参照されたい。

② 萼の直径…ヤブ：約1.2cm；マメ：平均約8.5mm。（久内, 1937）による。

③ 花径…多摩丘陵における少ない観察であるが、ヤブザクラのよく成長した花では3.1~3.7cm位になる（ただし、他産地の標本ではこれより少し小さめのものもある）。開花時でないとうっかりにくい形質であるが、混在するマメザクラ（径1.6~2cm：前掲の大場秀章先生の記述による；径2.0~2.4cm：『日本のサクラの種・品種マニュアル』久保田秀夫先生の執筆部分）と区別するには大変便利である。ヤブザクラがマメザクラやエドヒガン（花径1.5~2cm：前掲の大場秀章先生の記述、船津近松先生の『日本のサクラの種・品種マニュアル』の記述いずれも同じ）の両種よりも大きくなる点は雑種強勢の特徴の表れとも考えられ、倍数化の可能性も含めて最も注意すべきことである。なお、花柱の下半部に毛を密生し、蜜腺が葉身基部に出る点でエドヒガンと

共通するチョウジザクラを想定しても、結果は同様である。ただし、箱根を基準産地として記載されたオオバナマメザクラ *P. incisa* var. *urceolata* の存在には注意を払う必要がある。この傾向は萼片にも認められる。

④ 花柱の下半部の毛

ヤブザクラは花柱の下半部に毛を散生することが多い。多摩丘陵や津久井方面における観察では、このような性質を表したものが大部分であった(注1)。ところが、葉形の似た広義マメザクラ(キンキマメザクラ、ブコウマメザクラ、クモイザクラなどを含む)の花柱は無毛とされる(注2)。そのため、ヤブザクラは、マメザクラの変種として位置づけるのではなく、マメザクラと花柱の下半部に毛を密生する他の種類(例えば基本種ではエドヒガンやチョウジザクラなど)と関係してできた‘雑種’という見方がなされるのである。しかし、諸性質から一方の親として有力視されるエドヒガンも、花径については前掲のように説明のつかない部分を残している。そこで、ヤブザクラは単なるF1雑種でなく、推定される繁殖様式の件も含めて、雑種起源の‘種’と位置づけられるのである。

(注1) 毛の少ない樹では、花柱の基部近くに数本、ごく稀には無毛という花も観察された。一方、時々見つかる、枝がやや横張り性を示し、花が薄くピンクを帯び、花卉が細めになる個体では、花柱下半部の毛の密生が目立った。これはエドヒガンとの交雑(現段階では戻し交雑とは言えない)を思わせるものであるが、周辺には現在、マメザクラはあってもエドヒガンは見つからない。

(注2) 久保田秀夫先生は『日本のサクラ 本田・林編』p.79のマメザクラの説明の中で、“花柱は通常無毛”というふうに、例外を仄めかすような表現をされている。多くの文献に無毛と書かれていること、このような個体をまだ観察していないことから、頻度の低さや地域性の関係することも考えられ、各地で注意したいところである。この点は、四国の高山に生育するインヅチザクラ(シコクマメザクラ)の起源を考える上でも重要である。細分した場合のタカネザクラ(ミネザクラ)の花柱が無毛であるのに対し、チシマザクラでは無毛または有毛とされるからである。

⑤ 蜜腺の位置…ヤブザクラは必ず葉身の基部(注3)に出る。葉の形やきょ歯を有する萼片な

どの類似点から、マメザクラとオオシマザクラの雑種と推定されるものが、しばしば本種と誤認されている。しかし、多くの場合、それらの蜜腺は葉柄上部にも現れることが多く、よく注意すれば萼片の形(前掲のような卵形にならない)、托葉(櫛状に著しく切れる)、葉柄や花梗の毛(一般に毛が少ない)などにも違いが観察される。本誌27号の表紙のコピーに使用された“ヤブザクラ”は上記の雑種と推定されるものであった。

(注3) 葉柄との境付近から数mm位離れた部分までの間である。ただし、稀に単羽状に極めて小さな裂片を生ずることがあり、その場合には葉柄上に出たものと見誤りやすい。

⑥ 葉のきょ歯の様子、先端に現れる腺の具合

近似種との比較に役立つ形質である。久内先生は“余ハ花無シニヤぶざくらト断定スル能力ヲ有サナイノdeal”と極めて慎重な姿勢で対処されたが、ヤブザクラのきょ歯の先端は褐色気味に色づく(タカネザクラ・オオシマザクラ・エドヒガンなどで観察されるような顕著な腺にはならない)ものがかなりの割合で混じり(この点はオオシマザクラとマメザクラの間に生じた雑種に似る)、通常のマメザクラとは異なっている。「通常の」とした理由は、マメザクラのきょ歯の先は一般に腺にならないとされ、私の観察結果も概ね同様であるが、箱根方面の‘マメザクラ’(交雑を起こしているのかも知れないが、外観はマメザクラそのものである)には不顕著な腺(褐色気味に色づく)の観察される例が多いのである。きょ歯の先に腺が現れることや葉身基部に蜜腺が出ることに限っては、本県に産するエドヒガン・ミヤマザクラ・チョウジザクラにも注意を払わなければならないが、これら3種とはきょ歯の先の尖り方が異なっている(マメザクラ・ヤブザクラは短い芒状に尖る)。また、ミヤマザクラや一部のマメザクラ(箱根方面産にはしばしば多重きょ歯が観察される)とは葉のきょ歯の重なり具合に違いが見られ、ヤブザクラでは久内先生が示されたとおり、ふつつ2重、稀に3重(時にそれより多いこともある)である。また、チョウジザクラとは標本にした場合に紙が黄染しないこと(久保田先生による。この特徴はオクチョウジザクラでも観察されるが、チチブザクラやニッコウザクラなどの雑種でははっきりしない)でも区別できる。

⑦ 葉の毛

葉柄や下面側脈上に現れる毛のはえ方(密度、

向き)は、近似種との区別に役立つことが少なくない。県下に自生する葉の有毛のサクラを、開出するものから伏すものへ順に並べてみると、チョウジザクラ、マメザクラ、ヤブザクラ、エドヒガン、ミヤマザクラのようになる。

⑧ 果実の稔性

久内先生は明言されなかったが、ヤブザクラに実が着くことは確かである。これはエドヒガン(雌)◎×オオシマザクラ(雄)と考えられているソメイヨシノでも頻繁に観察されることである(結実性は低い。ただし、マメザクラとオオシマザクラとの雑種と推定される個体の中には、かなり実の成るものもある)から特に不思議はない。ただし、一般のnormalな種と比べると、実成りはわるいようである。実が着いても発芽力のある正常な種子ができるとは限らない点に注意して、今後観察を続けたい。久内先生は“胚珠は2個で常に不完全”と書かれたが、多摩丘陵高位面(とくに町田市・八王子市との境界となる尾根沿い)におけるヤブザクラの広範な多生状況、疑問の晴れないエドヒガンが見当たらない点などを考えると、ヤブザクラ自体が実生繁殖を行っている可能性が大きい。

⑨ その他

樹高…多摩丘陵で見かける本種の多くは低木または小高木状のもので、高さはせいぜい5~8m程度である。高さ14mのものは見たことがない。これは強度の人為的干渉が続けられてきた当地域の樹林の一面を見ているせいかも知れない。なお、最近見出したヤブザクラとヤマザクラとの交雑品と思われる株(20m×20mの比較的狭い範囲に約20個体)では、幹長(倒れているため)10m前後とみられるものを観察した。付近にはマメザクラとオオシマザクラとの雑種と推定される株(1個体)もあった。

<分布>

◇ 文献に‘ヤブザクラ’として詳細な地域名が示されたもの。

久内(1937):高尾山の標本と横浜市中区立野町立野小学校裏および同矢口臺における観察(拾ったもの)から、武相(武蔵および相模の国の意)に人知れずして分布しているのであろうと推定している。

中井猛之進(1949):p.414の房州自生のヤマザクラ類の検索表にヤブザクラの名がみられる。検索枝では“花柱に毛なし”の方に含まれてい

る。

林弥栄・他3名(1961):中津溪谷、津久井、世附。

本田正次・ほか2名(1962):浅川流域自生植物目録に掲載。

山梨県(1982):“甲盆。盆地北辺の低山地林中、葉はやや大形で、かく裂片は幅が広く、明らかな鋸歯がある。関東地方西部(東京都西部、神奈川県、山梨県)に分布する。要害山にやや多い。”との説明がある。なお、「甲盆」については、甲府を中心とした平坦部で周囲山地との境はカシの分布限界とした、と凡例に書かれている。

飯泉優・曾根伸典(1982):青梅市産高等植物目録に掲載。

千葉県生物学会編(1986):産地として富津(稀)が載っている。同会(1975)にみられた「千葉」はここでは削除されている。

◇ 神奈川県立博物館所蔵標本(私の検したもの)海老名市 EB (No. 45133, 山内好孝氏採集, 1979.4.22…花);相模湖町景信 SAG (No. 45141, 森茂弥氏, 1982.8.18…葉);藤野町和田 FUG-1 (No. 45142, 森茂弥氏, 1982.8.18…葉),厚木市上依知宝泉寺 AT-2 (No. 45407, 高橋秀男氏採集, 1984.6.5);山北町平山 YA-8 (No. 100474, 浜中義治氏採集, 1988.7.25…葉のきょ歯に重なるの多い徒長枝2本につき、検討を要す。ただし、他には当てようがない);海老名市国分 EB (No. 103143, 森百合子氏採集, 1989.3.21…花, 1989.7.20…葉);大和市西鶴間二丁目18 (No. 102677, 武井尚氏採集, 1989.6.4…葉);不老山(KPM.2784, 西尾和子氏採集, 1960.5.28…検討品)。

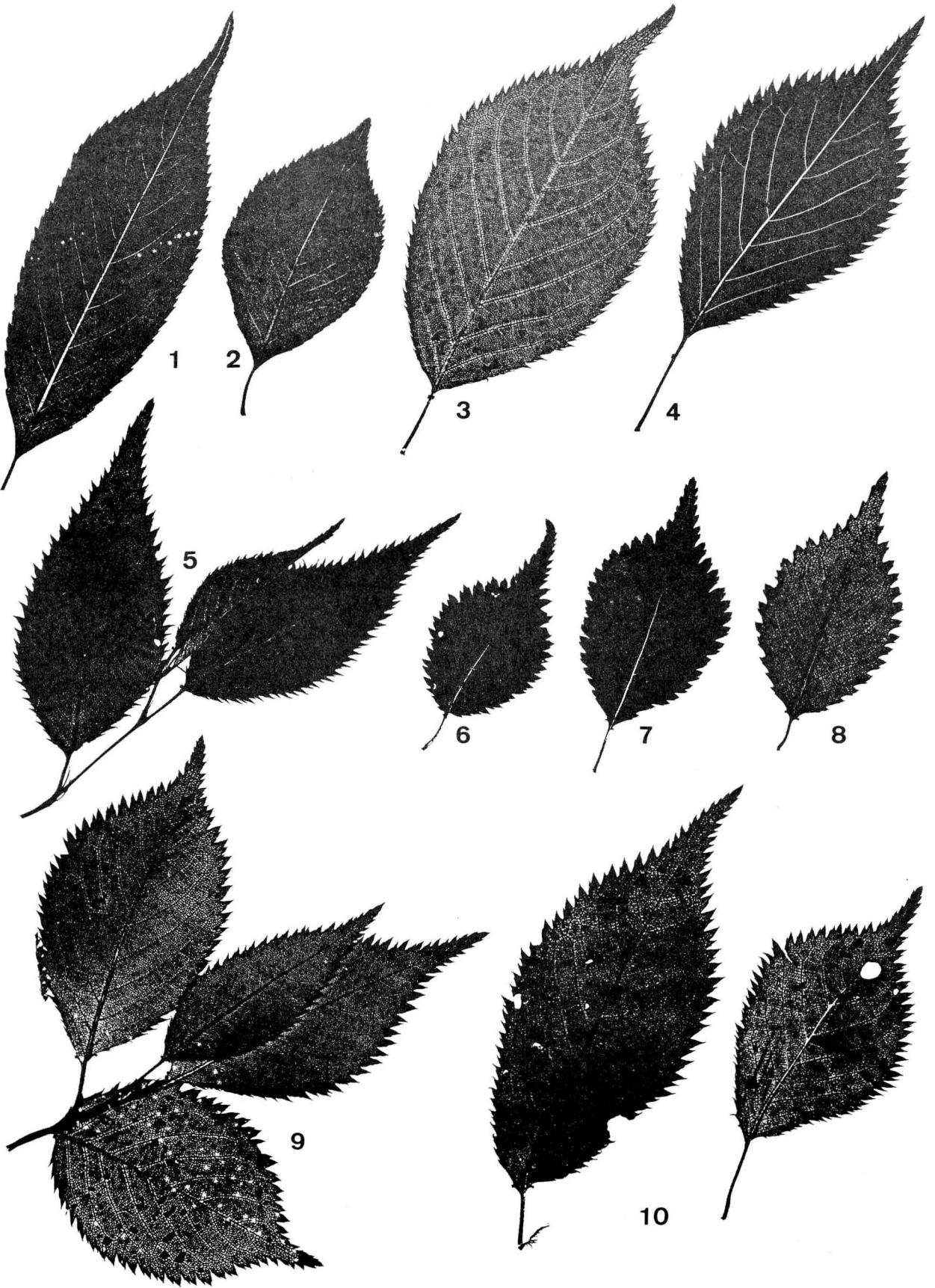
※ No. は神奈川県植物誌標本番号;KPM.は神奈川県立博物館所蔵標本番号を示す。

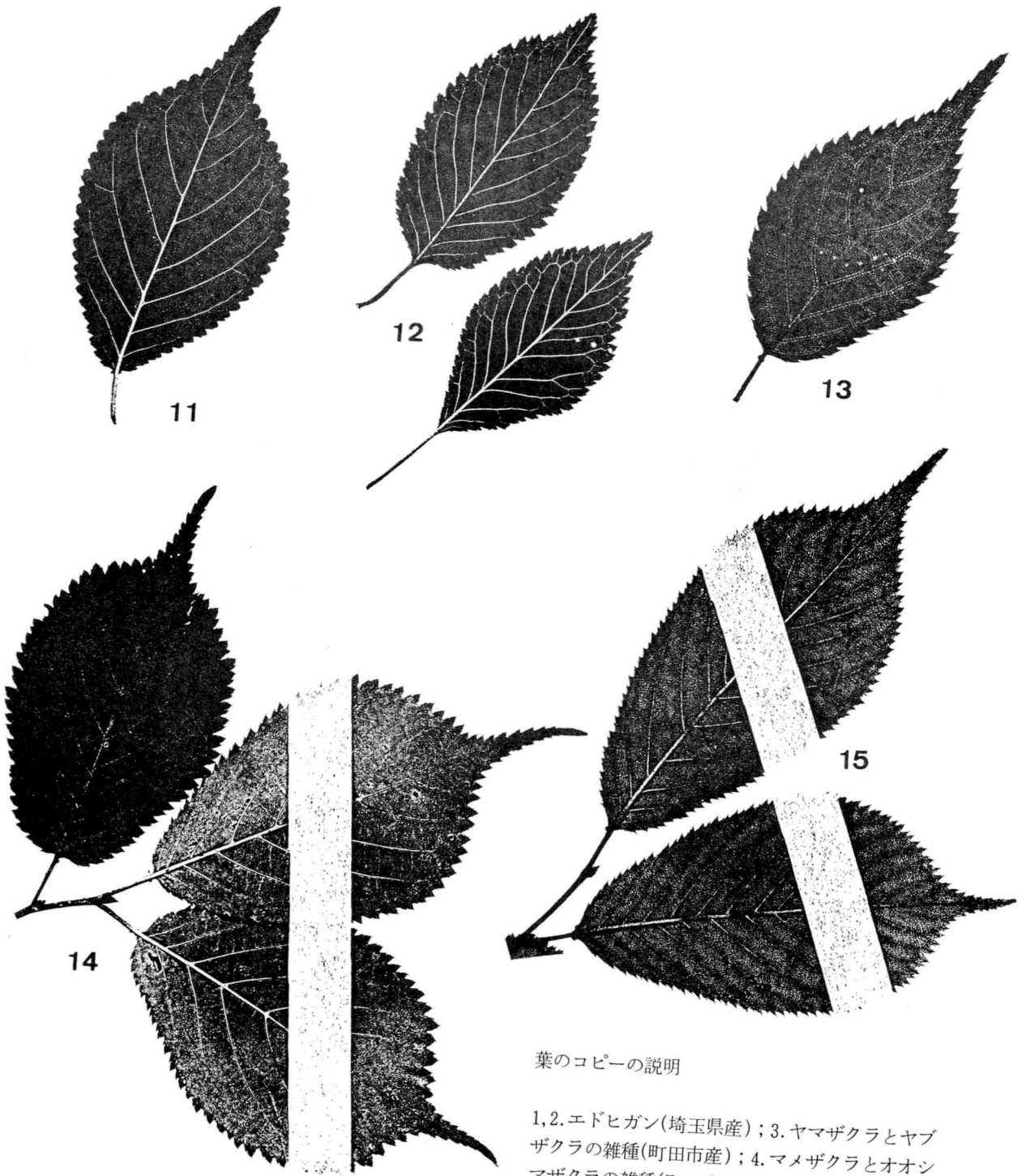
なお、『植物誌’88』で引用された寒川産1点(平塚市博物館所蔵)は未検である。県下では川崎市麻生区黒川においても確認した。都下では八王子市、町田市などにある。

◇ 基準産地…都下八王子市の高尾山であり、横浜ではない。詳しくは植物研究雑誌 第十三巻 第七號のp.545~546, 551(久内, 1937)を参照。

<観察, 採集を行う場合の注意>

サクラ属やヤナギ属など、類似種の多い植物群ではとくに、四季、各発育段階を通じた観察が望まれる。しかし、実際にそのような観察を行える恵まれたケースは少ないことから、植物個体を適





[すべて原寸大]

葉のコピーの説明

1,2.エドヒガン(埼玉県産); 3.ヤマザクラとヤブザクラの雑種(町田市産); 4. マメザクラとオオシマザクラの雑種(町田市産); 5. ヤブザクラの一形(八王子市産); 6. タカネザクラ(石川県産); 7,8. マメザクラ(八王子市産の別個体); 9,10. ヤブザクラ(八王子市産の別個体); 11. チョウジザクラ(津久井町産); 12. ミヤマザクラ(丹沢大室山産); 13. ヤママメザクラ(東伊豆産); 14. ニッコウザクラ=チョウジ×カスミ(埼玉県産); 15. チブザクラ=チョウジ×エドヒガン(埼玉県産)

当な数だけ特定し、芽、花、葉、果実などの特徴が効率よく観察できる時期を見計って、少ない回数で効果的に調べることが求められる。個体識別のためのマーキングは一般にめんどうであるが、大変重要な作業である。山野ではなるべく、陽や雨の当たりにくい根元近くの丈夫な小枝などを選び、必要な情報を書き込んだビニールテープを巻いて目印としている（地権者、所有者に対する配慮は適宜行うものとする）。マーキングに用いる材料は対象とする植物に合わせて工夫すればよい。

＜標本の保管＞

標本を作る方の多くが体験されたことと思われるが、植物の中には“標本虫”に大変好まれるものがある。サクラもその一つで、小さな「虫」1匹くらいと退治しないでおくと、大部分の標本が虫に喰われて研究に使用できないという事態が起こりうる。開花期の標本、とくに花卉（蕾みは喰われにくい）や葯は狙われやすい（虫が増えてくると、軟らかい新葉や果実も喰われる）ことから、十分に注意を払われることをお勧めする（チャック付きビニール袋に少々市の防虫剤を入れただけでは、防ぎ切れないようである）。生き物の命に感謝の気持を表しながら苦勞して採集し、心を込めて押し葉とした尊い標本の価値を失わせないために、敢えて、私が観察した要注意の植物群を p. 308 に示しておく。

＜主な参考文献＞

- 畔上能力, 1985: 明治の森高尾国定公園の植物。多摩の自然, 第82号, 特集・高尾山の自然, 24-28. 八王子自然友の会。
- 千葉県生物学会編, 1975: 新版千葉県植物誌。井上書店, 東京。(p.411)
- 千葉県生物学会編, 1986: 千葉県植物ハンドブック(改定版)。(p.76)
- 久内清孝, 1937: 雑録 やぶざくらノ正體ヲ明徴ニスル。植物研究雑誌, 13 (7): 545-551。
- 林弥栄・小林義雄・小山芳太郎・大河原利江, 1961: 丹沢山塊の植物調査報告。林業試験場研究報告 第133号。(財)林野共済会, 東京。
- 本田正次・林弥栄編, 1974: 日本のサクラ。誠文堂新光社, 東京。
- 本田正次・九里聡雄・鈴木重隆, 1962: 浅川流域の植物。南多摩文化財総合調査報告 第3分冊, 東京都文化財調査報告書, 12: 497-529。東京都教育委員会。(p.507)

- 飯泉優・曾根伸典, 1982: 青梅市の植物。青梅市の自然Ⅱ [動物・植物編Ⅰ] 別刷。(p.26)
- 北村四郎・村田源, 1982: 原色日本植物図鑑 木本編 [Ⅱ]。保育社, 大阪。(改定8刷)
- 小泉源一, 1915: 植物学雑誌 29: 314。
- 小泉源一, 1916: 植物学雑誌 30: 77。
- 中井猛之進監修, 1949: 東亜植物圖説。春陽堂, 東京。
- 大井次三郎, 1965: 改定新版 日本植物誌顕花篇。至文堂, 東京。
- 奥山春季, 1948a: 植物採集覚書(其四)。植物研究雑誌, 22 (1~2): 30-32。(p.31)
- 奥山春季, 1948b: 植物採集覚書(其七)。植物研究雑誌, 22 (7~9): 130-133。
- サクラの品種に関する調査報告書編集委員会, 1982: 日本のサクラの種・品種マニュアル。(財)日本花の会, 東京。
- 佐竹義輔・原寛・亙理俊次・富成忠夫編, 1989: 日本の野生植物 木本Ⅰ。平凡社, 東京。(p.193)
- 高橋秀男, 1971: フォッサ・マグナ要素の植物。神奈川県立博物館調査研究報告 自然科学 第2号。神奈川県立博物館。
- 山梨県, 1982: 山梨県植物誌。山梨県県民生活局環境公害課。(p.254)

[前号の補足]

オキナワジュズスゲ

南関東産については、『茨城県植物誌』(1981)の著者の一人、野口達也先生が注意され、その目録 p.114 に“鹿島町。まれ。”と載せられた。p.5の暖地性植物の項にも種名がみられる。

ムカゴサイシン

勝山輝男先生が前号(29:294)に本種を紹介されたが、その後、読んだ覚えのある文献が見つかったので少し付け加えておきたい。奥山春季先生が、ご自身で監修されていた「植物採集ニュース」第24号(1966年3月) p.9に、“東京から姿を消して30余年 ～ムカゴサイシンの分布～”と題して親切に紹介されたもので、同誌第72号(1974年3月)の“亡びゆく植物の記録”の p.12 でも再び簡単に触れている。奥山(1966)によると、東京目黒の林業試験場産の証拠標本は、科博に1枚(矢野宗幹氏採集, 1931.6.6), 東大に1枚(矢野・柳田両氏採集, 1931.5, 花・淡桃色と手記。

同じ台紙に久内清孝氏採集, 1931.9.5, 葉) であるという。植物研究雑誌第四巻第五號の口繪には、飯沼愨齋先生が写生された原図と同大の図が載せられ、その横には牧野富太郎先生が“其實物ニ接シタノハ私ハ實ニ本年即チ昭和二年三月十五日ガ始メテデアル、多年氣ニカカッテ居ッタ此植物ヲ今親ク賭ルヲ得タノハ全ク知友理學博士矢野宗幹君ノ賜モノデアル、死んだ子に出會ひしほどの嬉し哉ノ一句ガロヲ衝イテ出タ” (抜粋) と書き残している。また、本田正次・他 (1962) は浅川流域自生植物目録に本種を掲げ、注意すべき植物の項で、“浅川実験林内に自生することは注目すべきことである。正門に近い外国針葉樹の落葉中に生ずるとのことであるが、今回の調査では発見できなかった。” (抜粋) と述べている。ただし、草下正夫・小林義雄 (1953) がまとめた「浅川実験林の野生植物」中の目録には掲載されていないことから、1953年頃から1960年頃にかけて記録されたものと思われる。また、伊豆七島産のうち大島のもは鈴木普二 (1955) によるもので、鈴木先生ご自身が黒潮小屋から50m程のところ (都立大島公園内。数年前に担当したこの公園の調査の時に、この報告を見落としてしまった) で1949年6月4日に採集したものであるという。証拠標本の所在については示されていないが、東京農工大学の常谷研究室の大島採集行の時に見つけたものであることや常谷幸雄先生が同定されていることから考えて、東京農工大学に収められている可能性が大きい。

<文献>

- 本田正次・九里聡雄・鈴木重隆, 1962: 浅川流域の植物。南多摩文化財総合調査報告 第3分冊, 東京都文化財調査報告書, 12: 497-529. 東京都教育委員会. (p.525, 529)
- 鈴木普二, 1955: ムカゴサイシンの新産地。植物研究雑誌, 30 (12): 376.

ウシオハナツメクサ (松山庫三 1949)

初島住彦 (1976) の『琉球植物誌 (追加・訂正版)』p.878に, *Spergularia bocconei* (Schneelee) Foucaud ex Merino オオウシオツメクサ (新称) というのがあった。雄しべの本数など気になる点は少なくないが、注意は必要である。和名に対する考え方は、大場達之 (1987) に賛成であるので、そのまま松山庫三 (1949) を用いておく。ただし、大場先生も書かれたように疑

義がある場合には、初島先生のものを含めて検討し直す必要がある。なお、*S. bocconei* の命名者については次のようになっている。大場達之先生 (前出) … (Schneelee) Aschers. et Graebn.; 松山庫三先生『神奈川植物誌 1988』p.632… (L.) Grisebach .

<参考文献>

- 初島住彦, 1976: 琉球植物誌 (追加・訂正版). 沖縄生物教育研究会. (p.878)
- 松山庫三, 1949: 野外植物新発見. 野草, 15 (4): 1-2.
- 大場達之, 1987: ウシオツメクサ属の帰化種, ウシオハナツメクサ. 神奈川自然誌資料, 8: 41-44. 神奈川県立博物館.

ニセアゼガヤ

大場達之先生が新称されたニブイロアゼガヤ *Leptochloa uninervia* (Presl.) Hitchcock et Chase. (本誌24:187) という植物には、既に杉本順一先生の与えられた上記の和名が存在していた。これは昨秋、本種の標本を持参して宮城県を訪れた時に、庄子邦光先生のご教示によりわかったものである。『日本草本植物総検索誌 単子葉篇』のp.75に、*Diplachne uninervia* Parodi ニセアゼガヤ (新称) として載っており、名古屋に帰化していたことがわかる。

本種は川崎市の東扇島の湿ったところに極めて普通に見られ ('88~'90), '89年には東京の江東区埋立地 (青海二丁目および若洲15号地。いずれも少ない) においても確認した。庄子先生によれば、宮城県においても記録されているという。

隣接地の植物 (1)

(小崎昭則)

隣接地域で記録された植物のうち、今後本県でも見つかる可能性の大きい種類について、少しずつ紹介してみたい。

チクゴズズメノヒエ *Paspalum disticum* L.
var. *indutum* Shinners

多摩川下流の東京都大田区地先の河川敷の湿ったところに帯状に群生していた (1990年確認)。JR 京浜東北線の上り電車に乗ると鉄橋のすぐ下に見える、線路と平行する舗装道沿いである。この部分は道を中心に低くなっていて、水が溜まりやすく、本種の生態、繁殖に適った条件が高温期

につくられる。付近には、湿地を好むメリケンガヤツリも多生する。

本種はアメリカのテキサス州などに知られる4倍体で、基準変種のスズメノヒエ(6倍体)とは葉鞘が多毛であることにより区別される。日本では九州で最初に気づかれ、千歳・大隈・矢野・中村(1982)は、“農家の人の話では1960年頃には既に局部的発生が認められ、1970年代に徐々に目立ってきた。”、そして、“ここ数年で発生面積が一層広がり、現在では筑後地方の最優占雑草となっている。”と報告している。

本和名が広く公にされたのは、この報告の時とみられ、この植物が雑草関係の研究者らによって「筑後系」、「Chikugo-gawari」、「キシウスズメノヒエ亜種」と呼ばれてきたことについて触れている。本和名を有する植物に対して学名を考定、報告されたのは福岡県の益村聖(1989)で、それには、筑後地方においてこの二形がはっきりと住み分けていること、この二形が一見して区別できること、両形の接触地において中間形を見ていないことなどが述べられ、『The Grasses of Texas』に記された var. *indutum* の記載内容“基本変種によく似ているが、下方の葉鞘に、しばしば葉生にも、基部が乳頭突起となったやや硬い毛が密生する。”が紹介されている。住み分けに関し、角野(1988a)は、チクゴスズメノヒエはため池への侵入も少なくないが河川での群生が目につく、と記している。両者の相違点としては他に、大隈・千歳・吉留(1983)が報告した葉色(チクゴの方が濃い)、ほふく茎の太さ(チクゴ…太い)、茎横断面の維管束数(チクゴ…多い)、生育量(クリークの水際に植え付け試験を行った結果、チクゴの生育量がキシウの約6倍になった例)、PHや土壌水分の変動に対する適応性(チクゴ…やや小さい)などが知られている。

国内の分布については最近各地で注意されるようになり、次第に明らかにされつつある。よく知られた産地は次のとおりである。筑後川下流域の福岡(本県側が主体)・佐賀の両県、兵庫県(角野,1983)、香川県(角野,1984;中・西部主体…和気・久米,1990)、山口県柳井市(1989年…南敦,1989)、新潟県新潟市(鳥屋野潟1976年…池上,1986;清五郎潟1986年…笹川,1989)・同県豊栄市(福島潟1988年…笹川,1989);同県加茂市(高橋務,1989)、岐阜県海津町およびその周辺

(1988年…角野,1988)、埼玉県越谷市大吉(1986年…土屋,1990)、千葉県野田市江戸川畔(1989年…土屋,1990)などである。

一般の図鑑類では、長田武正(1989)の『日本イネ科植物図譜』p.582に簡単な紹介がみられる。

<主な参考文献…一般書以外>

千歳昭二・大隈光善・矢野雅彦・中村盛三,

1982:筑後川下流域のクリーク雑草「チクゴスズメノヒエ」の生態と防除,第1報 発生の状況とクリーク環境,雑草研究,27(4):283-287.

角野康郎,1983:「キシウスズメノヒエ」亜種のこと.水草研究会会報, No.12:6.

角野康郎,1984:キシウスズメノヒエの二型について.植物分類,地理,35:182.

角野康郎,1988a:兵庫県の帰化水草.水草研究会会報, No.32:2-4.(p.4)

角野康郎,1988b:岐阜県にも「チクゴスズメノヒエ」.水草研究会会報, No.33 34:51.

益村聖,1989:チクゴスズメノヒエの学名.植物分類,地理,40:97-98.

大隈光善・千歳昭二・吉留純一,1983:筑後川下流域のクリーク雑草「チクゴスズメノヒエ」の生態と防除,第2報 2,3の形態的特徴と生育特性.雑草研究,28(1):25-30.

笹川通博,1989:新潟県におけるチクゴスズメノヒエの分布.水草研究会会報, No.36:9-10.

高橋務,1989:加茂川下流域のチクゴスズメノヒエ.新潟県植物分布図集 第10集:523-524.植物同好じねんじょ会.

土屋守,1990:埼玉県と千葉県のチクゴスズメノヒエ.水草研究会会報, No.39:16.

和気俊郎・久米修,1990:香川県における水草分布調査の一事例.水草研究会会報, No.40:2-8.(p.2,3,7)

上記以外の関連文献…雑草研究,21(3):112-115,115-119,120-125.;雑草研究,28(1):31-34;雑草研究,30(3):208-212.;雑草研究,33(3):209-211.

各メッシュ追加標本リスト

(県立博物館提出分)

FLORA KANAGAWA No.27 で植物誌発刊後の記録を報告しましたが、今年度も多くの追加標本が提出されています。コンピューター入力ですんだ分についてリストを報告します。実際にはもっと多くの標本が提出されていますが、重複するものは入れてありません。*印のついているものは植物誌にのっていないものです。植物誌の分布図に追加される方はご利用ください。尚、FLORA KANAGAWA No.28, No.29, No.30 の記事に報告が書かれているものはリストから除外しています。各記事を参照してください。

マツバラシ		イワガネソウ	
ISE-1 日向	酒井重謙	YAT 上草柳泉の森	武井尚
ヒカゲノカズラ		オウレンシダ	
AS 下川井町	小崎昭則	YAT 下鶴間公所	山本明
MI-2 荏田町	日野千恵子	イワヒメワラビ	
HAK-4 箱根園	内田藤吉	HAK-4 箱根神社	浜中義治
トウゲシバ		TSR 獅子ヶ谷市民の森	近勝男
TO-1 弥生台	小崎昭則	フモトシダ	
カタヒバ		YA-7 不老山	高坂雅子
TS-3 東開戸	勝山輝男	タチシノブ	
イヌカタヒバ		YAT 柳橋3丁目	武井尚
YAT 柳橋三丁目	山本明	ワラビ	
イワヒバ		HAK-4 箱根園	浜中義治
TS-3 東開戸	勝山輝男	オオバノイノモトソウ	
トクサ		EB 国分	森百合子
YAT 中央林間三丁目		アマクサンダ	
イヌドクサ		HAK-5 湯坂山	浜中義治
FUJ-2 津久井青年の家	勝山輝男	イノモトソウ	
オオハナワラビ		YAT 上草柳東ヶ里	山本明
YA-7 不老沢	高坂雅子	ホラシノブ	
EB 国分	森百合子	YAT 上和田谷戸	武井尚
HAK-1 金時神社	浜中義治	MI-1 柿の木台	北川淑子
KON 上永谷五丁目	田中京子	ミズワラビ	
アカハナワラビ		MIU 神田	勝山輝男
TAM 黒川	小崎昭則	MI-1 長津田町岡部谷戸	勝山輝男
ハマハナヤスリ		オオカナワラビ	
FU-1 城南1丁目	和田仁	AS 都岡町	小崎昭則
SE 中屋敷	諏訪哲夫	サトメシダ	
ヒロハハナヤスリ		HAK-1 仙石原	勝山輝男
TAM 早野	北川淑子	ヌリワラビ	
MI-1 新治町	北川淑子	HAK-6 小塚山	浜中義治
ヤシャゼンマイ		ニシキシダ	
TS-3 東開戸	勝山輝男	HAK-6 強羅	浜中義治
オクタマゼンマイ		ヒロハイヌワラビ	
SAG 鮎子	勝山輝男	AS 上川井町	小崎昭則
ウラジロ		シケチシダ	
YAT 深見城ヶ岡		HAK-5 二子山	浜中義治
ウチワゴケ		オニヤブソテツ	
HAK-6 小塚山	浜中義治	YAT 上草柳泉の森	武井尚
ホウライシダ		HAK-6 底倉	浜中義治
YAT 柳橋3丁目	小林頌子	MI-2 元石川町	北川淑子

*ナガバヤブソテツ		YAT 上和田三貫目	山本明
YAT 上和田上ノ原	山本明	イヌガンソク	
ヤブソテツ		YA-7 川西	高坂雅子
HAK-2 三国山	高坂雅子	クサソテツ	
HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治	HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治
イワヘゴ		コウヤワラビ	
T0-1 岡津町	小崎昭則	HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治
サイゴクベニシダ		アイアスカイノデ	
AS 上川井町	小崎昭則	YA-7 不老沢	高坂雅子
オンダ		ツヤナシノデ	
T0-1 弥生台	小崎昭則	YA-7 山市場〜番ヶ平	内田藤吉
トウゴクシダ		オニイノデ	
YAT 上和田三貫目	山本明	TS-3 エビラ沢	勝山輝男
サクライカグマ		ジュウモンジシダ	
MI-1 長津田町中村	小崎昭則	YA-7 峰	高坂雅子
エンシュウベニシダ		T0-1 岡津町	小崎昭則
AS 上川井町	小崎昭則	ヒメカナワラビ	
オオイタチシダ		YA-7 峰	高坂雅子
HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治	ドウリョウイノデ	
YAT 下鶴間	山本明	YAT 上和田上ノ原	山本明
イワイタチシダ		*ゴサクイノデ	
TS-3 東開戸	勝山輝男	YAT 上和田上ノ原	山本明
*フジオシダ		オオタニイノデ	
AS 都岡町	小崎昭則	YAT 上和田三貫目	山本明
ナライシダ		ハシゴシダ	
YAT 下鶴間	山本明	TSR 三ッ池公園	近勝男
ナンゴクナライシダ		FU-3 新林公園	内田藤吉
HAK-5 恩賜公園	内田藤吉	YAT 下鶴間	山本明
ホソバシケンダ		*アオハリガネワラビ	
YA-7 不老沢	高坂雅子	MI-1 長津田町中村	小崎昭則
YAT 下鶴間	山本明	ヤワラシダ	
*オオホソバシケンダ		HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治
YAT 下鶴間山谷	山本明	YAT 上和田三貫目	山本明
*ホソバフモトシケンダ		ヒメシダ	
YAT 下鶴間山谷	山本明	HAK-5 恩賜公園	浜中義治
シケンダ		トラノオシダ	
TSR 駒岡町	近勝男	HAK-6 宮城野	浜中義治
*タマシケンダ		イワトラノオ	
YAT 上草柳泉の森	山本明	HAK-4 箱根神社	浜中義治
セイタカシケンダ		マメヅタ	
TSR 三ッ池公園	近勝男	YAT 下鶴間山谷	山本明
YAT 下鶴間	山本明	ノキシノブ	
フモトシケンダ		HAK-4 箱根園	浜中義治
YAT 上和田三貫目	山本明	T0-1 岡津町	小崎昭則
MI-2 元石川町	北川淑子	TAK 向ヶ丘	北川淑子
ハクモウイノデ		ビロードシダ	
TAM 早野	北川淑子	FUJ-2 津久井青年の家	勝山輝男
ミヤシケンダ		サンショウモ	
AS 上川井町	小崎昭則	YAT 下和田町	武井尚
*ムサシケンダ		カヤ	

HAK-1 仙石原	浜中義治	ナルコビエ	
オオスズメノテッポウ		KI-3 清水ヶ丘団地	佐藤恭子
MI-1 恩田町	北川淑子	オニウシノケグサ	
ウシクサ		HAK-4 大芝	浜中義治
MI-1 新治町	勝山輝男	ナギナタガヤ	
AT-3 飯山	佐藤恭子	YAT 福田7丁目	武井尚
KON 日野公園墓地	浜中義治	HAK-2 山伏峠	浜中義治
メリケンカルカヤ		HAK-6 強羅	浜中義治
HAK-5 湯本	浜中義治	オオウシノケグサ	
コバンソウ		YAT 福田	武井尚
YAT 上和田町上ノ原	武井尚	ムカゴオオウシノケグサ	
HAK-6 宮城野	浜中義治	YAT 福田	武井尚
ヤクナガイヌムギ		ウラハグサ	
MI-1 長津田1丁目	勝山輝男	YA-7 塩沢	高坂雅子
MI-2 もみの木台	北川淑子	ウシノシッペイ	
イヌムギ		NIS 楠町	吉川アサ子
KI-3 煤ヶ谷	佐藤恭子	コウボウ	
オヒゲシバ		YAT 柳橋	武井尚
NAK 桜木町	吉川アサ子	*ニセシラゲガヤ	
オガルカヤ		YAT つきみ野三丁目	山本明
AT-4 鐘ヶ岳	佐藤恭子	*ホソノゲムギ	
ギョウギシバ		NAK 桜木町	吉川アサ子
KI-3 煤ヶ谷	佐藤恭子	オオムギ	
TAM 早野	北川淑子	EB 門沢橋	蒔田かおる
HAK-4 早雲山	浜中義治	アゼガヤ	
タツノヒゲ		TAM 枅形	小崎昭則・吉田三夫
HAK-6 小塚山	浜中義治	ホソムギ	
メヒシバ		YAT 柳橋5丁目	武井尚
HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治	HAK-2 山伏峠	浜中義治
コメヒシバ		HAK-6 宮城野	浜中義治
HAK-5 山崎	浜中義治	ヒメアシボン	
アキメヒシバ		HAK-4 箱根園	浜中義治
HAK-4 元箱根	浜中義治	YA-7 塩沢	高坂雅子
ハマガヤ		アシボン	
NAK 新港埠頭	勝山輝男	YA-7 塩沢	高坂雅子
ヒメタイヌビエ		MI-2 元石川	北川淑子
YAT 上和田町宮久保	武井尚	HAK-2 湖尻峠	浜中義治
ヒメイヌビエ		ハチジョウススキ	
HAK-5 湯本	浜中義治	FU-3 片瀬山	高坂雅子
HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治	コネズミガヤ	
ヒエ		YAT 西鶴間一丁目	武井尚
YAT 上草柳	武井尚	MI-1 子供の国	勝山・北川・小崎
オヒシバ		オオクサキビ	
HAK-4 箱根園	浜中義治	KI-3 尾崎	佐藤恭子
HAK-5 山崎	浜中義治	アメリカスズメノヒエ	
シナダレスズメガヤ		MI-2 佐江戸	北川淑子
HAK-4 樹木園	浜中義治	*アオチカラシバ	
カゼクサ		HAK-2 湖尻峠	浜中義治
HAK-4 箱根園	浜中義治	カナリークサヨシ	
		YAT 西鶴間5丁目	武井尚

ヨシ		ナルコスゲ	
HAK-4 箱根園	浜中義治	SA-1	高橋秀男
MIA-1 足柄峠	浜中義治	オニスゲ	
オオイチゴツナギ		HAK-5 箱根	浜中義治
YAT 柳橋3丁目	小林頌子	シラスゲ	
オオスズメノカタビラ		TAM 早野	北川淑子
YAT 上草柳町	武井尚	マスクサ	
ヒエガエリ		HAK-6 宮城野	浜中義治
HAK-6 宮城野	浜中義治	テキリスゲ	
HAK-1 仙石原	浜中義治	MI-1 長津田	北川淑子
ハイヌメリ		HAK-6 強羅	浜中義治
MI-1 もえぎ野	北川淑子	ナキリスゲ	
HAK-4 箱根神社	浜中義治	MAT 寄	浜中義治
アキノエノコログサ		センダイスゲ	
HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治	MIU 黒崎	勝山輝男
コツブキンエノコロ		スカスゲ	
YAT 西鶴間	武井尚	MI-1 新治町	勝山輝男
HAK-5 山崎	浜中義治	YAT 下鶴間公所	山本明
エノコログサ		ノゲスカスゲ	
HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治	FUJ-2 綱子	勝山輝男
HAK-5 湯本	浜中義治	KAZ 金沢八景	勝山輝男
カタバエノコロ		YAT 下鶴間緑野	武井尚
HAK-5 山崎	浜中義治	ミコシガヤ	
セイバンモロコシ		SAG 弁天島	勝山輝男
YAT 上和田町城山	武井尚	MI-2 落合橋	勝山輝男
KAZ 鳥浜町	浜中義治	ミヤマシラスゲ	
*ムラサキネズミノオ		MI-2 落合橋	勝山輝男
MIU 小網代	勝山輝男	オタルスゲ	
MI-2 美しが丘	北川淑子	HO 川島町	小崎昭則
*スナシバ		ヒメゴウソ	
CH-2 柳島	勝山輝男	MI-1 長津田	北川淑子
マダケ		ホンモンジスゲ	
HAK-1 金時神社	浜中義治	YAT 福田	武井尚
モウソウチク		タカネマスクサ	
YAT 深見	武井尚	HAK-5 お玉ヶ池	小崎・北川
メダケ		シラコスゲ	
YAT 福田町	武井尚	HAK-1 仙石原	浜中義治
スズタケ		アイダクグ	
YA-7 不老山	高坂雅子	MIU 黒崎	北川淑子
エナシヒゴクサ		メリケンガヤツリ	
SA-1 高田橋	勝山輝男	YAT 福田1丁目	小林頌子
SAG 鮎子	勝山輝男	アゼガヤツリ	
マツバスゲ		HAK-4 早雲山	浜中義治
AS 川井宿町	勝山輝男	HAK-5 湯本	浜中義治
メアオスゲ		アオガヤツリ	
YAT 上草柳	武井尚	YAT 福田二丁目	武井尚
オオアオスゲ		イガガヤツリ	
KAZ 金沢八景	勝山輝男	YAT 上和田町	武井尚
*イソアオスゲ		カワラスガナ	
KA-1 扇ガ谷	宮田昭治	HAK-5 湯本	浜中義治

MIA-1 足柄峠	浜中義治	YAT 下鶴間	
ミズガヤツリ		ヒメヤブラン	
MI-2 佐江戸	北川淑子	YA-7 不老沢	高坂雅子
HAK-5 山崎	浜中義治	ジャノヒゲ	
セイタカハリイ		YAT 深見町坊ノ窪	武井尚
MI-2 佐江戸	北川淑子	MIA-1 足柄峠	浜中義治
ハリイ		ツルボ	
MI-2 佐江戸	北川淑子	HAK-4 姥子	浜中義治
テンツキ		ナツズイセン	
YAT 福田	武井尚	EB 国分	森百合子
メアゼテンツキ		タチドコロ	
MI-1 新治町	北川淑子	FUJ-2 吉原	勝山輝男
フトイ		ヤマノイモ	
MI-2 佐江戸	北川・小崎	HAK-6 宮城野	浜中義治
コウキヤガラ		カキツバタ	
MI-2 落合橋	勝山輝男	MI-1 長津田東工大	勝山輝男
サンカクイ		キショウブ	
FU-3 片瀬山	高坂雅子	YU-1 宮上	浜中義治
コサンカクイ		HAK-1 仙石原	浜中義治
MI-2 佐江戸	北川・小崎	ニワゼキショウ	
ショウブ		HAK-6 強羅	浜中義治
YAT 深見西4丁目	武井尚	ミョウガ	
コンニャク		MAT 寄	浜中義治
AS 矢指町	小崎昭則	エビネ	
ミミガタテンナンショウ		KON 上永谷	田中京子
HAK-4 駒ヶ岳	内田藤吉	サイハイラン	
YA-7 不老沢	高坂雅子	HAK-6 宮城野	浜中義治
ウラシマソウ		オノノヤガラ	
EB 上今泉二丁目	森百合子	YAT 西鶴間	武井尚
カラスビシャク		MI-1 長津田町	勝山輝男
HAK-5 大平台	浜中義治	クロヤツシロラン	
トキワツユクサ		MI-1 新治町	勝山輝男
YAT 深見	武井尚	シュスラン	
コナギ		YA-7 塩沢	内田藤吉
KI-3 片原橋	藤田千代子	クロムヨウラン	
ヒロハコウガイゼキショウ		MIU 小網代	勝山輝男
AS 川井宿町	勝山輝男	MIU 上宮田	鈴木一善
ナベワリ		コケイラン	
HAK-6 小塚山	浜中義治	HAK-1 仙石原	井上香世子
ノビル		フウトウカズラ	
HAK-6 宮城野	浜中義治	YU-1 宮上	浜中義治
ヤマラッキョウ		ヤマナラシ	
KON 上永谷五丁目	田中京子	YAT 下鶴間公所	武井尚
ハラシ		シダレヤナギ	
EB 河原口	森百合子	YAT 上草柳町	武井尚
チゴユリ		バッコヤナギ	
AS 川井宿町	勝山輝男	HAK-6 強羅	浜中義治
シンテッポウユリ		ネコヤナギ	
HAK-6 板里	浜中義治	SAG 鮑子	勝山輝男
オニユリ		シバヤナギ	

YAT 下草柳	武井尚	ウマノスズクサ	
イケノヤナギ		AT-1 下荻野	諏訪哲夫
KI-2 宮ヶ瀬	高橋秀男	オオバウマノスズクサ	
KOH 茅ヶ崎町	小崎昭則	MI-1 長津田町岡部谷戸	勝山輝男
サワグルミ		ギンミズヒキ	
HAK-1 金時神社	浜中義治	EB 上今泉四丁目	森百合子
MAT 寄	浜中義治	ツルソバ	
ケヤマハンノキ		MAN 真鶴岬	柵木信
KA-1 今泉	長谷川義人	オオイヌタデ	
ヤマハンノキ		HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治
HAK-5 大平台	浜中義治	ポントクタデ	
オオバヤシャブシ		KA-1 山崎	長谷川義人
HAK-4 早雲山	浜中義治	KI-3 煤ヶ谷	佐藤恭子
アカシデ		サナエタデ	
HAK-5 大平台	浜中義治	YAT 深見森下	武井尚
ツノハシバミ		ウラジロサナエタデ	
AT-3 順礼峠	藤田千代子	HAK-1 仙石原	浜中義治
アカガシ		EB 柏ヶ谷	森百合子
HAK-5 大平台	浜中義治	ヤマミゾソバ	
ブナ		YA-7 塩沢	高坂雅子
HAK-6 板里	浜中義治	オオハルタデ	
ナラカシワ		EB 柏ヶ谷	森百合子
YAT 下和田町上ノ原	武井尚	ハナタデ	
ハルニレ		HAK-2 湖尻峠	浜中義治
FUJ-2 芝田	勝山輝男	シロバナハナタデ	
カナムグラ		YAT 上草柳泉の森	武井尚
HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治	ハイミチヤナギ	
ホソバイヌビワ		YAT 福田	武井尚
YAT 下鶴間山谷	山本明	ミチヤナギ	
ウスバラセイタソウ		HAK-5 山崎	浜中義治
MAT 寄	浜中義治	オオイタドリ	
サガミヤブマオ		HAK-2 湖尻	高坂雅子
TAM 西生田	武井尚	シロザ	
クサマオ		HAK-1 仙石原	浜中義治
HAK-1 金時神社	浜中義治	HAK-2 湖尻峠	浜中義治
ヒメウワバミソウ		アリタソウ	
HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治	HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治
ウワバミソウ		ウラジロアカザ	
YAT 上草柳泉の森	武井尚	NIS 楠町	吉川アサ子
ミズ		ノハラヒジキ	
YAT 上草柳泉の森	山本明	NAK 新港埠頭	森茂弥
ヤマミズ		ヤリゲイトウ	
HAK-6 小塚山	浜中義治	YAT 下鶴間	武井尚
アオミズ		ヨウシュヤマゴボウ	
EB 大谷	森百合子	KI-3 清水ヶ丘団地	藤田千代子
マツグミ		HAK-6 宮城野	浜中義治
YAT つきみ野八丁目	山本明	HAK-5 湯本	浜中義治
ヤドリギ		クルマバザクロソウ	
YAT 上和田	梅津淳子	YAT 下鶴間町	武井尚
OIS 国府本郷	高橋秀男	HAK-5 山崎	浜中義治

オランダミミナグサ		HAK-5 湯坂山	浜中義治
HAK-2 山伏峠	浜中義治	YAT 上草柳泉の森	武井尚
HAK-1 仙石原	浜中義治	サネカズラ	
ナンバンハコベ		EB 国分	森百合子
AT-3 飯山観音	藤田千代子	クスノキ	
AT-4 山の神トンネル	藤田千代子	YAT 柳橋5丁目	武井尚
カワラナデシコ		タブノキ	
HAK-4 早雲山	浜中義治	HAK-5 大平台	浜中義治
フランネルソウ		クサノオウ	
YAT 上和田	武井尚	HAK-6 宮城野	浜中義治
ムシトリナデシコ		HAK-5 大平台	浜中義治
HAK-6 宮城野	浜中義治	ジロボウエンゴサク	
ノミノフスマ		KON 上永谷	田中京子
HAK-1 仙石原	浜中義治	ムラサキケマン	
ウシハコベ		HAK-1 仙石原	浜中義治
HAK-6 強羅	浜中義治	ミヤマキケマン	
サワハコベ		YAT 上和田	武井尚
HAK-6 小塚山	浜中義治	ケナンチャンパギク	
コハコベ		AS 都岡町	小崎昭則
HAK-1 仙石原	浜中義治	ナガミヒナゲシ	
オオヤマハコベ		YAT 大和南二丁目	武井尚
YA-7 塩沢	内田藤吉	ヤマハタザオ	
フサザクラ		HAK-6 宮城野	浜中義治
HAK-1 金時神社	浜中義治	ヒメアマナズナ	
カツラ		TS-3 青野原	勝山輝男
YAT 上草柳文ヶ岡	武井尚	タネツケバナ	
ツクバトリカブト		HAK-1 仙石原	浜中義治
YAT 下草柳	武井尚	HAK-4 駒ヶ岳	内田藤吉
リュウキンカ		オオバタネツケバナ	
HAK-5 恩賜公園	内田藤吉	HAK-1 仙石原	浜中義治
ボタンヅル		マメグンバイナズナ	
YAT 上和田上ノ原	武井尚	HAK-5 山崎	浜中義治
セリバオウレン		ゴウダソウ	
TO-3 中野町	山下敏夫	HAT-4 曲松	城川四郎
アキカラマツ		ミチバタガラシ	
TS-3 東開戸	勝山輝男	YAT 福田町	武井尚
HAK-5 湯坂山	浜中義治	ヒメイヌガラシ	
ゴヨウアケビ		MI-2 佐江戸	北川淑子
HAK-4 早雲山	浜中義治	ツメレンゲ	
アケビ		TS-3 東開戸	勝山輝男
HAK-6 宮城野	浜中義治	タコノアシ	
ムベ		FUJ-2 芝田	勝山輝男
YAT 深見坊ノ窪	武井尚	MI-2 落合橋	勝山輝男
メギ		キリンソウ	
HO 川島町	小崎昭則	TS-3 東開戸	勝山輝男
イカリソウ		マルバマンネングサ	
TS-3 長野	勝山輝男	YAT 柳橋3丁目	武井尚
コウモリカズラ		チダケサン	
YAT 下鶴間	武井尚	HAK-5 湯坂山	浜中義治
オオツヅラフジ		ハコネクサアジサイ	

HAK-4 樹木園 イワボタン(ミヤマネコノメソウ)	浜中義治	YAT 西鶴間4丁目 コメツブツメクサ	武井尚
HAK-6 強羅 マルバウツギ	浜中義治	YAT 福田町 タチオランダゲンゲ	武井尚
SE ニツ橋町	小崎昭則	YAT 南林間9丁目 アカツメクサ	武井尚
EB 国分伊勢山 ガクウツギ	森百合子	HAK-6 宮城野 ナンテンハギ	浜中義治
YA-7 不老山 バイカウツギ	高坂雅子	EB 国分 カタバミ	森百合子
YA-7 不老沢 マンサク	高坂雅子	MAT 寄 アカカタバミ	浜中義治
FUJ-2 吉原 クサボケ	勝山輝男	YU-1 宮上 HAK-6 強羅	浜中義治 浜中義治
HAK-4 芦ノ湖東岸 キジムシロ	浜中義治	HAK-1 金時神社 MAT 寄	浜中義治 浜中義治
HAK-6 宮城野 ヤマザクラ x マメザクラ	浜中義治	キバナノマツバニンジン HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治 浜中義治
YAT 下鶴間町緑野 カスミザクラ	武井尚	EB 上今泉五丁目 アマ	森百合子 森百合子
ISE-3 桜坂 トキワサンザシ	和田仁	EB 上今泉五丁目 マツカゼソウ	森百合子 浜中義治
FU-2 石川 モリイバラ	斎木操	HAK-6 宮城野 ナツミカン	浜中義治
HAK-2 湖尻峠 アズマイバラ	浜中義治	YAT 柳橋一丁目 カラスザンショウ	武井尚
HAK-1 仙石原 シモツケ	浜中義治	YAT 上草柳町扇野 オオバキハダ	武井尚
YAT 代官1丁目 ゲンゲ	武井尚	HAK-2 芦ノ湖西岸 シンジュ	浜中義治
HAK-1 仙石原 タヌキマメ	浜中義治	YAT 林間二丁目 ヒメハギ	武井尚
TO-3 中野町 ケヤブハギ	山下敏夫	ZA 入谷三丁目 エノキグサ	諏訪哲夫
YAT 上和田町三貫目 ヤブハギ	武井尚	YA-7 川西 ユズリハ	高坂雅子
YAT 上和田町上ノ原 MAT 寄	武井尚 浜中義治	AS 上川井町 ニシキソウ	小崎昭則
アレチヌスビトハギ YAT 上和田町宮久保	武井尚	YAT 深見西6丁目 タカトウダイ	武井尚
EB 柏ヶ谷 TO-3 小菅ヶ谷町	森百合子 山下敏夫	HAK-1 仙石原 ナツトウダイ	高坂雅子
メドハギ HAK-5 大平台	浜中義治	YAT 上和田 コニシキソウ	武井尚
ニシキハギ HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治	HAK-5 大平台 キダチミカンソウ	浜中義治
ツルメドハギ YAT 上草柳泉の森	武井尚	AT-5 緑ヶ丘 コミカンソウ	酒井重謙
イヌエンジュ KI-3 別所	藤田千代子	KI-3 別所	藤田千代子
ムラサキウマゴヤシ			

ヒトツバハギ		YAT 大和南2丁目	武井尚
AS 今宿町	小崎昭則	ニシキアオイ	
YAT 福田七丁目	武井尚	TAM 高石	武井尚
アワゴケ		ゼニアオイ	
HAK-6 強羅	浜中義治	EB 上今泉一丁目	森百合子
EB 上今泉四丁目	森百合子	ウラジロマタタビ	
フッキソウ		HAK-6 宮城野	浜中義治
HAK-6 宮城野	浜中義治	HAK-5 湯坂山	浜中義治
ツタウルシ		マタタビ	
HAK-1 金時神社	浜中義治	HAK-4 樹木園	浜中義治
ウルシ		ヤブツバキ	
YAT 南林間六丁目	武井尚	HAK-6 宮城野	浜中義治
ウメモドキ		HAK-1 仙石原	浜中義治
HAK-1 仙石原	浜中義治	チャノキ	
イヌウメモドキ		HAK-6 宮城野	浜中義治
AS 今宿町	小崎昭則	サカキ	
イヌツルウメモドキ		YAT 深見	武井尚
YAT 下草柳	武井尚	ハマヒサカキ	
コマユミ		AS 上川井町	小崎昭則
HAK-1 仙石原	浜中義治	コゴメバオトギリ	
ツリバナ		MI-2 荏田町	北川淑子
YAT 深見町	武井尚	アメリカスミレサイシン	
マユミ		YAT 中央林間三丁目	武井尚
HAK-6 宮城野	浜中義治	ケイリュウタチツボスミレ	
チドリノキ		TS-3 東開戸	勝山輝男
HAK-6 小塚山	浜中義治	アオイスミレ	
ミツデカエデ		HAK-5 湯本	浜中義治
HAK-1 金時神社		ケマルバスミレ	
オニイタヤ		HAK-6 宮城野	浜中義治
HAK-6 強羅	浜中義治	アツバスミレ	
HAK-1 仙石原	浜中義治	FU-3 鶴沼海岸	高橋秀男
フウセンカズラ		ヒメスミレ	
YAT 福田町	武井尚	EB 国分	森百合子
ムクロジ		アカネスミレ	
YAT 下和田中ノ原	武井尚	FU-3 新林公園	高坂雅子
アワブキ		フモトスミレ	
YA-7 山市場	高坂雅子	HAK-4 駒ヶ岳	内田藤吉
ミヤマハハソ		アギスミレ	
HAK-1 金時神社	浜中義治	YAT 福田町	武井尚
キツリフネ		ジュウカイドウ	
HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治	YAT 中央7丁目	武井尚
ツリフネソウ		EB 上今泉五丁目	森百合子
KON 上永谷五丁目	田中京子	イイギリ	
クマヤナギ		YAT 柳橋5丁目	武井尚
HAK-6 小塚山	浜中義治	ホソバヒメミソハギ	
サネブトナツメ		MI-2 落合橋	勝山輝男
YAT 下和田	武井尚	ヒメミソハギ	
キレハノブドウ		KI-3 片原橋	藤田千代子
HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治	ミソハギ	
キクバエビヅル		MAT 寄	浜中義治

イヌゴマ		YAT 福田	武井尚
MAT 寄	浜中義治	カワジシャ	
ツルニガクサ		MI-1 長津田1丁目	勝山輝男
YAT 中央四丁目	武井尚	ゴマ	
シロバナチョウセンアサガオ		NAK 新港埠頭	勝山輝男
YAT 上和田	武井尚	ナンバンギセル	
クコ		KI-3 別所	藤田千代子
YA-7 塩沢	高坂雅子	イワタバコ	
HAK-6 宮城野	浜中義治	HAK-6 小塚山	浜中義治
HAK-5 大平台	浜中義治	へらオオバコ	
イガホオズキ		HAK-5 二子山	浜中義治
YAT 上草柳泉の森	武井尚	ツボミオオバコ	
ホオズキ		YAT 西鶴間	武井尚
HAK-5 山崎	浜中義治	ヤブムグラ	
センナリホオズキ		HO 川島町	小崎昭則
YAT 上和田	武井尚	ヤمامグラ	
ハコベホオズキ		KON 野庭町	田中京子
TO-3 鍛冶ヶ谷町	高橋秀男	ヨツバムグラ	
ヤマホロシ		YAT 下鶴間公所	山本明
HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治	クルマムグラ	
マルバノホロシ		HAK-6 小塚山	浜中義治
HAK-5 大平台	浜中義治	MIA-1 足柄峠	浜中義治
イヌホオズキ		ハンカグサ	
YAT 下鶴間	武井尚	TSR 三ツ池公園	近勝男
テリミノイヌホオズキ		HAK-1 金時神社	浜中義治
HAK-5 山崎	浜中義治	ハナヤエムグラ	
ツタバウンラン		KA-1 大船	高橋秀男
YAT 西鶴間	武井尚	ツクバネウツギ	
HAK-6 強羅	浜中義治	HAK-6 強羅	浜中義治
アゼトウガラシ		ヤブデマリ	
KI-3 片原橋	藤田千代子	YA-7 不老沢	高坂雅子
YAT 下鶴間公所	山本明	ニシキウツギ	
アゼナ		HAK-4 早雲山	浜中義治
KON 野庭町	田中京子	ベニバナニシキウツギ	
HAK-5 湯本	浜中義治	YA-7 峰	内田藤吉
ミゾホオズキ		オトコエシ	
KI-3 中里	藤田千代子	HAK-5 二子山	浜中義治
キリ		スズメウリ	
HAK-5 山崎	浜中義治	YAT 福田町	武井尚
コシオガマ		HAK-5 湯本	浜中義治
HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治	キカラスウリ	
カクトラノオ		YA-7 塩沢	高坂雅子
HAK-5 湯本	浜中義治	YAT 深見町坊ノ窪	武井尚
ビロードモウズイカ		ケソバナ	
YAT 草柳1丁目	武井尚	YAT 下鶴間町	山本明
タチイヌノフグリ		ハマシャジン	
HAK-1 仙石原	浜中義治	MIU 黒崎の鼻	勝山輝男
クワガタソウ		ヤマホタルブクロ	
AT-4 広沢寺	諏訪哲夫	HAK-4 芦ノ湖東岸	浜中義治
ムシクサ		ミゾカクシ	

KI-3 片原橋	藤田千代子	タカアザミ	
FU-3 片瀬山	高坂雅子	YAT 下鶴間	武井尚
タニギキョウ		アメリカオニアザミ	
HAK-6 強羅	浜中義治	YAT 上和田	武井尚
YA-7 塩沢	内田藤吉	EB 国分	森百合子
キキョウソウ		オオアレチノギク	
MI-2 佐江戸	小崎昭則	HAK-5 湯坂山	浜中義治
EB 上今泉四丁目	森百合子	HAK-1 金時神社	浜中義治
ノブキ		ハルシャギク	
AT-3 飯山	佐藤恭子	MI-2 佐江戸	北川淑子
マルバクワモドキ		コスモス	
YAT 下鶴間	武井尚	YAT 福田町	武井尚
シロバナノコンギク		キバナコスモス	
YAT 南林間6丁目	武井尚	YAT 福田	武井尚
オオホウキギク		マメカミツレ	
HO 星川町	吉川アサ子	YAT 大和東二丁目	武井尚
NAK 桜木町	吉川アサ子	ヤクシワダン	
シラヤマギク		MIU 黒崎の鼻	勝山輝男
HAK-5 湯坂山	浜中義治	ヤネタビラコ	
ヒロハホウキギク		NAK 桜木町	吉川アサ子
KI-3 辺山	藤田千代子	タカサブロウ	
センダングサ		HAK-1 金時神社	浜中義治
KI-3 片倉	佐藤恭子	ダンドボロギク	
コセンダングサ		HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治
HAK-6 宮城野	浜中義治	ヒメムカシヨモギ	
コシロノセンダングサ		HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治
YAT 福田町	武井尚	ペラペラヨメナ	
タウコギ		KON 上永谷	田中京子
EB 河原口	森百合子	ホソバヨツバヒヨドリ	
ガングビソウ		EB 上今泉六丁目	森百合子
TSR 三ツ池公園	近勝男	ハキダメギク	
サジガングビソウ		YA-7 塩沢	高坂雅子
HAK-5 湯坂山	浜中義治	タチチチコグサ	
KON 上永谷五丁目	田中京子	YAT 上和田	武井尚
ヒメガングビソウ		アキノハハコグサ	
HAK-4 樹木園	浜中義治	MI-1 新治町	高坂雅子
ミヤマヤブタバコ		チチコグサ	
HAK-6 小塚山	浜中義治	HAK-6 宮城野	浜中義治
トキンソウ		HAK-1 仙石原	浜中義治
HAK-4 箱根園	浜中義治	チチコグサモドキ	
ノアザミ		HAK-5 大平台	浜中義治
HAK-2 湖尻峠	浜中義治	ウスベニチチコグサ	
アズマヤマアザミ		YAT つきみ野五丁目	山本明
YA-7 塩沢	高坂雅子	ウラジロチチコグサ	
AS 上川井町	小崎昭則	YAT 林間1丁目	武井尚
HAK-6 宮城野	浜中義治	EB 国分	森百合子
HAK-2 芦ノ湖西岸	浜中義治	キツネアザミ	
ノハラアザミ		NIS 楠町	吉川アサ子
KON 上永谷	田中京子	カセンソウ	
		YAT 中央林間六丁目	武井尚

ニガナ
HAK-2 山伏峠 浜中義治
サガミニガナ
TS-3 東開戸 勝山輝男
カントウヨメナ
HAK-5 山崎 浜中義治
ムラサキニガナ
HAK-6 宮城野 浜中義治
センボンヤリ
AT-3 順礼峠 藤田千代子
カミツレ
NAK 桜木町 吉川アサ子
ミヤマヨメナ
YAT 下鶴間 武井尚
キヌガサギク
HAK-1 金時神社 浜中義治
メナモミ
YA-7 塩沢 高坂雅子
セイタカアワダチソウ
YA-7 谷ヶ 高坂雅子
HAK-5 大平台 浜中義治
MIA-1 足柄峠 浜中義治
ノゲン
HAK-6 宮城野 浜中義治
オオオナモミ
HAK-6 板里 浜中義治

ヘビノネゴザ
Y0-5 横須賀市津久井三浦富士 890417 西山清治
J0 三浦市城ヶ島 890819 山田友久
ヒメオニヤブソテツ
Y0-1 横須賀市猿島 900622 大森雄治
MIU 三浦市南下浦町松輪 900517 山本明ほか
J0 三浦市城ヶ島 890819 西山清治
ナガバヤブソテツ
Y0-1 横須賀市若松町 大森雄治
ヘラシダ
Y0-2 横須賀市吉井 901212 山内好孝
ノコギリシダ
HAY 葉山町上山口 901224 山内好孝
ミサキカグマ
Y0-5 横須賀市武山 901125 石渡 宏
ナライシダ
KA-1 鎌倉市天園 901106 石渡 宏
イヌガンソク
Y0-1 横須賀市平作 900523 西山清治
コハシゴシダ
MIU 三浦市上宮田 901003 山内好孝
スリトラノオ
ZU 逗子市二子山 900114 山内好孝
タチアマモ
Y0-2 横須賀市観音崎 900128 一柳
ケカモノハンシ
HAY 葉山町葉山海岸 890804 西山清治
クロヤツシロラン
Y0-3 横須賀市久里浜緑地 901115 相磯 貢ほか
アケボノシュスラン
Y0-4 横須賀市大楠山 900918 斉藤恵子
マヤラン
Y0-4 横須賀市大楠山 900719 斉藤恵子
MIU 三浦市引橋 900708 西山清治
フタリシズカ
Y0-1 横須賀市平作 900511 斉藤恵子
ホコガタアカザ
Y0-5 横須賀市津久井 890519 西山清治
ツルソバ
Y0-3 横須賀市野比 900616 西山清治
ウマノアシガタ
Y0-3 横須賀市久里浜緑地 890405 西山清治
カゴノキ
HAY 葉山町木古庭不動滝付近 901214 山内好孝

三浦ブロックの新産地の追加記録

(大森雄治)

1989年から1991年にかけて採集された標本のうち、新産地として以下の記録を追加する。証拠標本は、いずれも横須賀市自然博物館に収蔵されている。

イヌスギナ
Y0-4 横須賀市秋谷 910116 山内好孝
コヒロハハナヤスリ
ZU 逗子市久木9丁目 890629 山内好孝
フユノハナワラビ
HAY 葉山町上山口 901101 山内好孝
ウラジロ
Y0-4 横須賀市長坂沢山池 900525 西山清治
ウチワゴケ
ZU 逗子市桜山(森戸川) 900218 山内好孝
HAY 葉山町長柄 900208 山内好孝
オウレンシダ
KA-2 鎌倉市十二所 900717 西山清治

ツルマンネングサ

ZU 逗子市逗子 890404 西山清治
オキジムシロ

Y0-4 横須賀市芦名 890518 西山清治
ホドイモ

Y0-1 横須賀市田浦泉町 900702 西山清治
ウマゴヤシ

Y0-5 横須賀市津久井 890519 西山清治
スルガヒメユズリハ

Y0-3 横須賀市野比 900507 西山清治
ツルマサキ

Y0-1 横須賀市衣笠城址 900208 西山清治
オランダフウロ

Y0-3 横須賀市久里浜久里浜緑地 900512
山内好孝

ノジスミレ

HAY 葉山町上山口 901224 山内好孝
ヒメスミレ

Y0-1 横須賀市平作 890526 西山清治
アリノトウグサ

MIU 三浦市初声町三戸 901105 山内好孝
ヒルザキツキミノウ

Y0-1 横須賀市衣笠城址 900625 西山清治

Y0-2 横須賀市観音崎 900628 西山清治

オカトラノオ

Y0-1 横須賀市衣笠公園 900511 斉藤恵子
マルバアオダモ

HAY 葉山町島山 900514 斉藤恵子
オカイボタ

ZU 逗子市二子山 901115 大森雄治ほか

ツルニチニチソウ

Y0-5 横須賀市津久井 西山清治

オオカモメヅル

Y0-1 横須賀市衣笠 900911 斉藤恵子
ハダカホオズキ

Y0-1 横須賀市衣笠 900912 斉藤恵子
カリガネソウ

ZU 逗子市森戸川 901001 斉藤恵子

HAY 葉山町上山口 901002 山内好孝

Y0-3 横須賀市佐原 900922 大森雄治
イヌノフグリ

KA-2 鎌倉市二階堂 900314 山内好孝
フラサバソウ

Y0-2 横須賀市観音崎 890310 西山清治

Y0-3 横須賀市久里浜緑地 900503 西山清治
ヤセウツボ (オニタビラコに寄生)

Y0-1 横須賀市衣笠栄町 900523 西山清治
マツバウンラン

Y0-3 横須賀市神明町 900512 山内好孝
キキョウソウ

ZU 逗子市逗子 890404 西山清治

ヤマハハコ

ZU 逗子市神武寺 890723 山田友久ほか
キツネアザミ

ZU 逗子市逗子 890404 西山清治

Y0-3 横須賀市久里浜緑地 西山清治
ハチジョウナ

Y0-2 横須賀市観音崎 890519 西山清治
ハナニガナ

MIU 三浦市引橋 890515 西山清治

◎会員名簿追加



◎編集後記

本号は今年度提出された標本に基づく各メッシュの追加目録を載せました。事務局にある植物誌の分布図にも追加された赤い分布点を入れています。県西や県北の調査が不十分だったメッシュ

も少しづつ充実してきています。今後もよろしくお願ひ致します。また、植物誌以後に明らかになった事実も多くあります。植物誌の改訂にそなえて、フロラカナガワでとりあげていきたいと思っています。次号は総会が終わった後にその報告も兼ねて5月末頃を予定したいと思っています。例によって原稿をお待ちしております。新産地報告、記録写真、感想などでも結構です。5月10日頃までに原稿をお送りください。